

2. 農民の農業技術とその水準

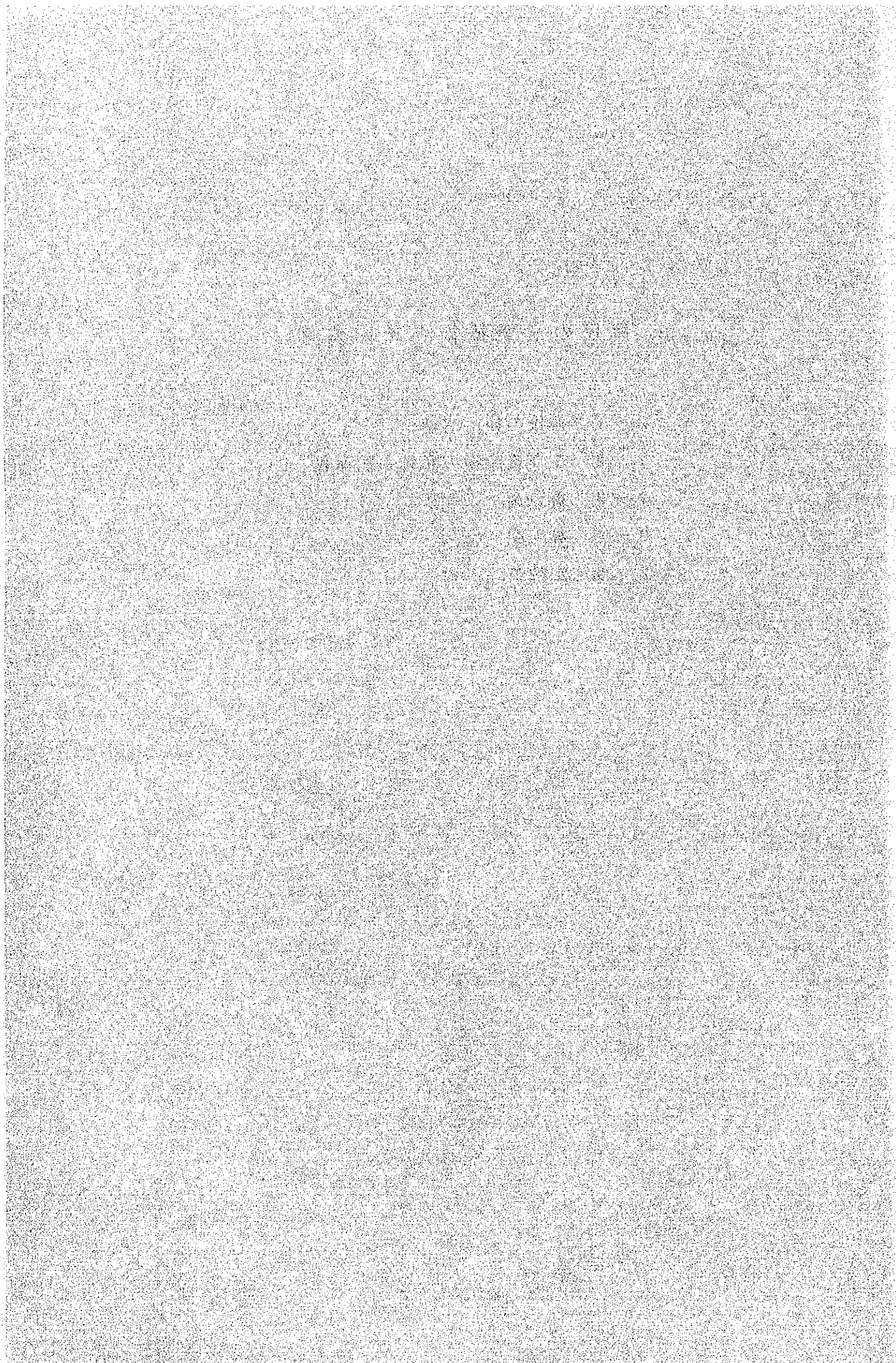
2-1 農民の技術水準

2-2 主要農産物の産地と生産量

2-3 畜産業

2-4 林業

2-5 水産業



2 農民の農業技術とその水準

2-1 農民の技術水準

バングラデシュの農業は、近年各種の振興努力によって開発推進地に著しい発展がみられているが、大部分の農民は古い技術体系の中に置かれている。農民は、農耕機具が単純で作業に合わせた農具の発達が見られない。一般農民の農具は、耕起に際してはコダールと呼ばれる犁が用いられている。コダールはその大部分が木製固定型で先端耕起部に僅かに金属が取り付けられているに過ぎない。耕起部分は地面に対して水平で角度がない。したがって、犁は表土表層部を掻くに過ぎず土壌の反転をすることができない。そのため、畑の浅い部分に耕盤が出来、根圏が制限されて作物の生育を抑制している。

人力農具は、鋤と鎌以外にない。鋤はランゴールと呼ばれ、60～70cmの柄に円形に近い鉄製で、その形は大、中、小の3種があるが、その3種類で総べての管理作業が行われ全たく農具の作業に合せた分化がない。バングラデシュの農業の振興には、作業内容に適合した農具の開発が先ず優先するものと考えられた。特に作業内容に合せた農具は、作業の精度を高めるだけでなく今後の集約技術の導入に当って絶対必要な課題であろう。

また技術面では、近年乾季の冬作が振興している。乾季における灌漑施設の充実は土壤水分の枯渇を補い、最も栽培管理の容易な乾季作を確立した。特にバングラデシュの様に大河のデルタによって形成されている国土では、雨季には河川が氾濫して水の制御が不可能である。年による氾濫水の多少や氾濫時期の早晩によって農耕は極めて不安定である。しかし、乾季作は水の補充によって作付は安定する。北部バングラデシュでは、小麦・大麦等の穀作と換金作物、南部では冬稲（ボロー）が農民間で普及している。また、これに対して施肥技術も推肥の使用と併行して農民間に普及しつつある。

農民の農業意欲を知る上で、各地区の農業生産を知る事は極めて重要と考えられる。そこで2-2において主要作物の産地及び生産量をアメリカメリーランド大学で1977年に出版したAgricultural Resources of the Worldより引用して紹介する。

バングラデシュの農作物生産指数は、1972/73を100として、1977/78年度は1253である。とくに、この国の主要作物である米は1285となっている。しかし1972/73年度は天候不順のため、農業生産が極端に落ち込んだ年であり、1977/78年度は逆に史上最高の生産を記録した年であった。この間の増加率は、必ずしも実態を表わしていない。ところで、農業生産が比較的平年作とみられる1973/74年度を基準にして、米の生産状況をみると、1976/77年度は987、1977/78年度は1089である。しかし年間の推計人口増加率2.8～3.0を考慮に入れると、農作物ならびに米の生産指数はほとんど変わっていないことになる。

パングラデッシュの基乾農作物は米とジャートで、この2作物で全農作物作付面積の80～85%を占めている。しかし、1971年の独立以後は、農作物の栽培作物の多角化が重視されている。また灌漑が奨励されて、乾期作物の作付面積が増加する傾向にある。とくに北部では冬作の小麦栽培が注目されてきた。したがって、この3作物に限定して言及することとする。

この国の農民技術は特に指摘するものがない。農耕は雨期に始まり、氾濫が終えて収穫が行われる夏作が主体を占めていた。しかし近年前述した掘抜井戸(Tube well)の普及によって地下水が活用され、乾期の冬作の水収支が改善され、急速に冬稲(ボロー)や北部の小麦や商品作物等の雑作の生産量が增大した。

特に夏作は大河の制御し難い流入水量によって氾濫し、土地利用や栽培作物は自ずと限定される。また、氾濫水によって肥培その他の栽培管理が制限され、技術導入の余地が少ない。しかし、乾季作では水の制約が姿を消し、如何なる技術でも受け入れる栽培環境が出現する。そこにおいて、栽培管理・肥培等総べての集約技術の投下が可能となるだけでなく、冬作農業に対する期待が高い。

しかし、この様な技術以前の問題として農具に大きな課題がある。パングラデッシュの農具は人力農具としては鋤と鎌であり、耕起は犁耕が行われる。鋤・犁共に極めてその鑄造及び質共に未発達で貧弱である。したがって、犁の改善による犁耕は、根圏を拡大して作物の生育・収量を改善するに必要である。また、鋤の改善は作業を容易にするだけでなく、中耕・培土等これまで行われていないが、収量を増加させるに欠かすことの出来ない管理作業を可能とする。今後の農業振興の上で灌漑事業の推進と農具の改善は最も重要な課題であると痛感した。

2-2 主要農産物

同国の農業は、国民の主食としての稲、および輸出作物としてのジャート作によって代表される。この他重要なものとして、カラシナ・ナタネ・サトウキビ・ジャガイモおよび近年特に栽培面積の増加している小麦などがあげられる。また Masoor, Gram, Mash 豆なども重要な作物であり、これらはいずれも国内消費を目的としている。この他、食生活改善の一環として、蔬菜類の増産が望まれるが、冬期における葉果菜類は可能としても、夏期および雨期における蔬菜生産は高温多湿下にあるため、質的・量的に不足し、わずかに在来種の数種を見るのみである。以下主要な農産物について説明を加えた。

2-2-1 稲

パングラデッシュでは、米の生産が圧倒的重要性をもっている。それは、将来とも変わらない命題であろう。

現状では農作物作付面積の約80%は米の生産にあてられているが、この国では未だ食糧の自給体制が確立されていないため、食糧不足量は年間100～150万トンに達している。天候不順で米が不作になると、その不足量は200万トンを越える。ちなみに米の生産量は1949

／50～1978／79年度の29年間に、738万トンから1252万トン（69.6%）へ増加したに過ぎない。この数字を年間増加率にしてみると、僅か2.43%で、絶対収量が極めて低いベースであることを考慮すると、甚だ低い増加率と言わざるを得ない。さらにこの増加率はまた、人口の増加率にも及ばないもの、ということである。この原因はいろいろあるにせよ、主として稲作改良技術の低劣と普及事業の不徹底に帰せられるべきものと考えられる。しかし、一部では近年著しい収量増を示しているが、この主たる原因はHigh Yield Varietyの導入・開発によるものと思われる。

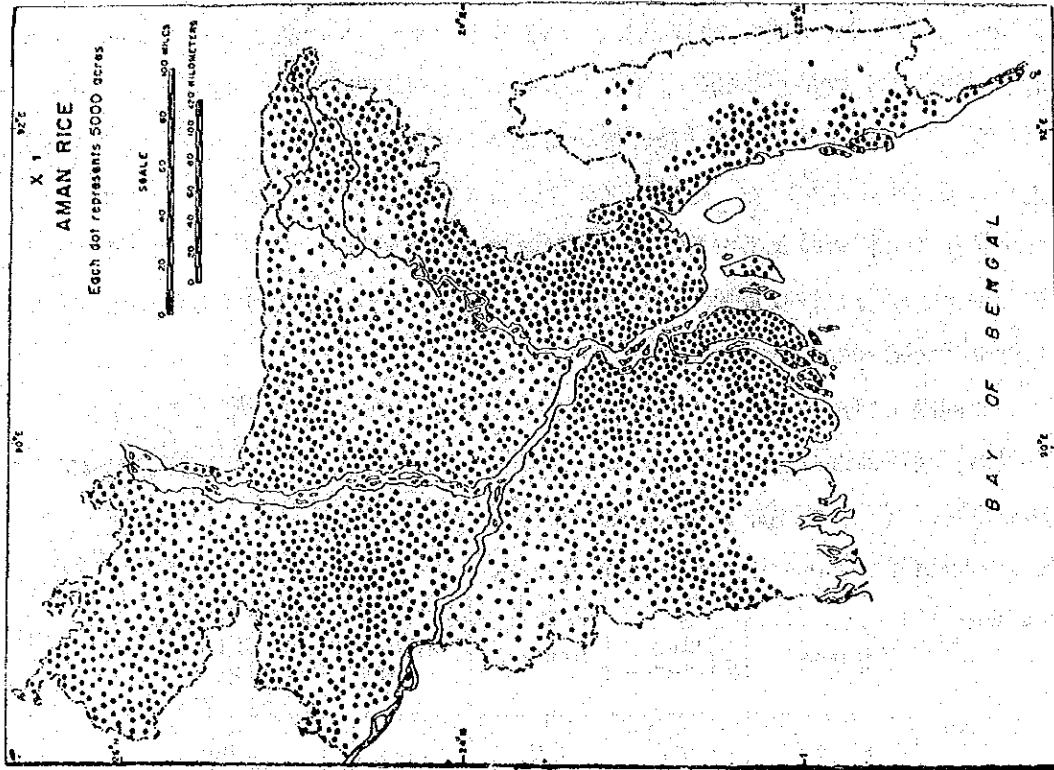
いま同国で利用されているHYVの性質を示すと、第2-1表のようになる。

なお、稲作地帯の分布を示したのが第2-1図であり、また、1960-1975年にわたる稲作の作付面積および生産量を示したのが第2-2表である。

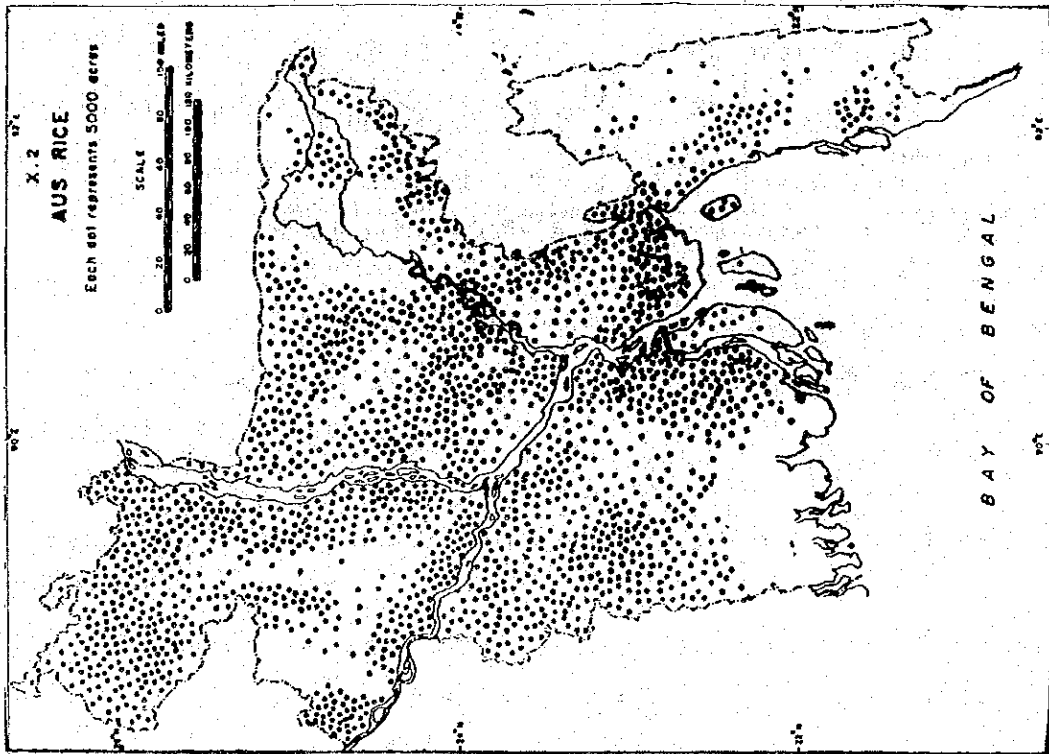
第2-1表 水稲の高収量品種特性

Variety	Date Released	Season	Maturity (days)	Fair Average Yield of Paddy (lbs/acre)
JR-8	1967	B.U.	145-160	5,300
IR-5	1969	T.A.	135	4,500
Purbachi (China)	1969	B.U.	125	4,500
IR-20 (Irrishail)	1969	T.A.	130	4,100
BR-1 (Chandina)	1970	B. U. T.A.	160 120 110	4,500
BR-2 (Mala)	1971	B.U.	120-140	3,300
BR-3 (Biplob)	1973	B. U.T.A.	160 120-140	4,100
BR-4 (Barrishail)	1975	T.A.	145	4,900

B=Boro ; U=Aus ; T.A.=Transplanted Aman



第 2-1-1 图 稻作地带分布图 (春稻)



第 2-1-2 图 稻作地带分布图 (夏稻)

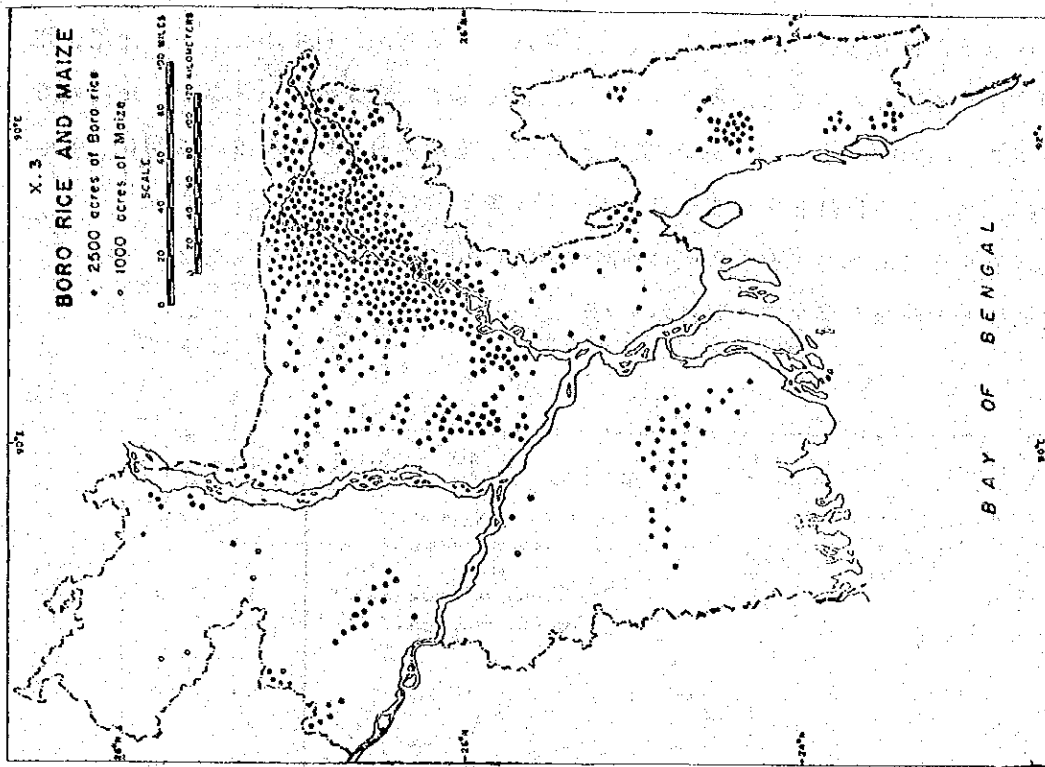


図2-1-1-3 稲作地帯分布図(冬稲及びトモモロコシ)

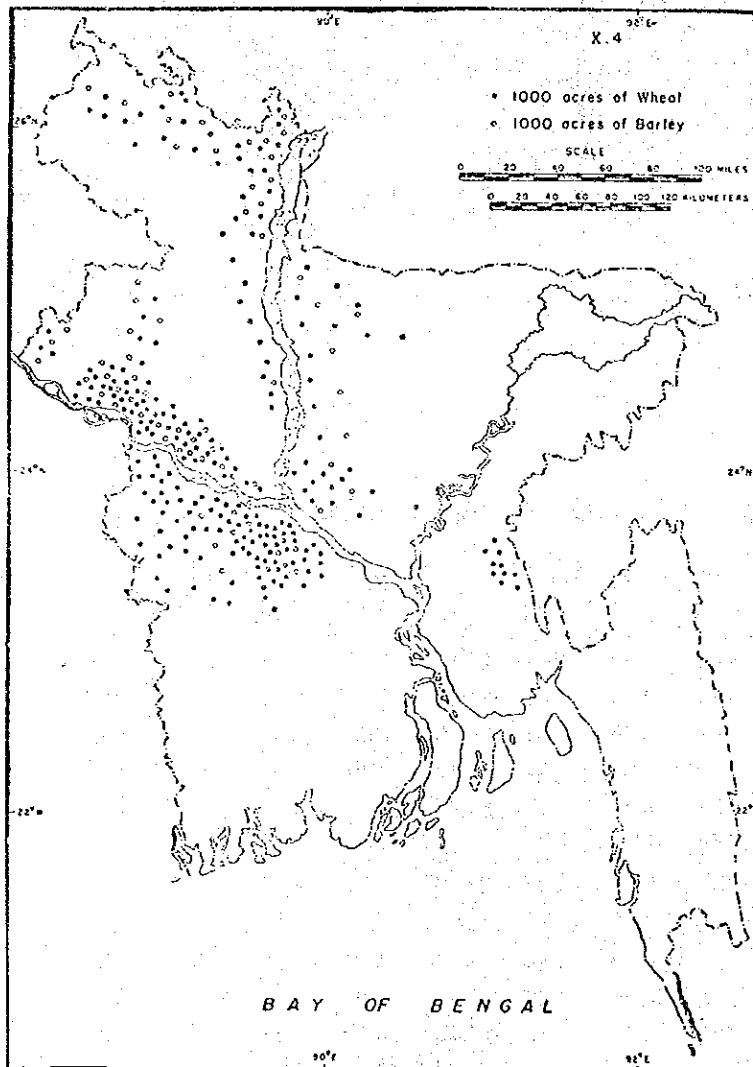
第2-2表 水稲の種類別作付面積と生産量

年次	作付面積(百万エーカー)				生産量(百万t)			
	春稲	夏稲	冬稲	合計	春稲	夏稲	冬稲	合計
1959-60	5.94	14.29	0.92	21.15	2.09	5.99	0.40	8.48
1960-61	6.30	14.58	1.01	21.89	2.50	6.57	0.45	9.52
1961-62	5.87	14.08	1.01	20.96	2.33	6.65	0.48	9.46
1962-63	6.19	14.22	1.07	21.48	2.20	6.05	0.48	8.73
1963-64	6.59	14.60	1.07	21.26	2.66	7.29	0.51	10.46
1964-65	6.64	15.11	1.05	22.80	2.50	7.26	0.57	10.34
1960-65 平均	6.32	14.52	1.04	21.88	2.44	6.76	0.50	9.70
1965-66	7.32	14.67	1.14	23.13	2.22	6.80	0.62	10.33
1966-67	6.96	14.06	1.39	22.41	2.67	5.92	0.83	9.42
1967-68	8.22	14.68	1.53	24.43	3.07	6.81	1.11	10.99
1968-69	7.66	14.40	2.01	24.07	2.68	6.87	1.61	11.16
1969-70	8.46	14.80	2.20	25.46	2.96	6.95	1.80	11.71
1965-70 平均	7.72	14.52	1.65	23.89	2.86	6.67	1.19	10.72
1970-75 平均	7.61	13.84	2.50	23.95	2.62	6.17	2.08	10.87

2-2-2 麦 類

小麦の生産は冬作に限られておる。もともと主食は米であるが、近年小麦も多く食用に用いられるようになり、その生産もびびてきている。特に短幹で収量の多いメキシコからの導入品種によって、1970年の後半は生産が増大している。生産の分布図を第2-2図に、また1965-1975年にわたる作付面積と生産量を第2-3表に示した。

大麦はやはり冬作であるが、その生産は地域的に限られている。分布図を第2-2図に、また、作付面積と生産量を第2-4表に示した。



第2-2図 小麦及び大麦の産地分布図

第2-3表 小麦作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (Tons)	作付面積 (エーカー)	生産量 (Tons)
Dacca	13,900	4,300	14,680	4,793
Mymensingh*	8,400	2,200	8,265	2,052
Tangail*	4,500	1,500	7,424	2,456
Faridpur	51,400	14,000	57,549	15,639
Chittagong	200	100	1,140	380
Hill Tracts	—	—	3	1
Noakhali	700	200	559	143
Comilla	10,700	4,500	25,798	13,060
Sylhet	300	100	550	202
Rajshahi	33,700	15,600	46,203	14,271
Dinajpur	5,200	2,100	8,416	2,936
Rangpur	13,300	4,300	15,206	5,730
Bogra	4,200	1,800	6,873	3,399
Pabna	40,000	13,000	61,944	22,742
Khulna	500	200	575	176
Bakerganj*	300	100	210	84
Patuakhali*	—	—	13	4
Jessore	8,700	2,600	306	4,348
Kushtia	26,500	8,500	33,290	15,284
合 計	222,005	75,100	302,004	107,700

* Estimated.

第2-4表 大麦の作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (Tons)	作付面積 (エーカー)	生産量 (Tons)
Dacca	2,400	500	2,784	769
Mymensingh*	1,900	700	1,364	456
Tangail*	3,600	1,100	10,049	2,790
Faridpur	11,400	2,500	10,634	2,220
Chittagong	—	—	—	—
Hill Tracts	—	—	—	—
Noakhali	—	—	—	—
Comilla	—	—	—	—
Sylhet	—	—	—	—
Rajshahi	17,100	4,700	16,956	4,481
Dinajpur	3,800	1,100	2,921	731
Rangpur	5,000	1,500	5,246	1,606
Bogra	700	300	829	262
Pabna	12,500	3,200	15,534	4,594
Khulna	—	—	—	—
Bakerganj*	—	—	—	—
Patuakhali*	—	—	—	—
Jessore	2,000	500	1,466	330
Kushtia	1,900	500	23,790	510
合 計	62,300	16,600	91,573	18,749

* Estimated.

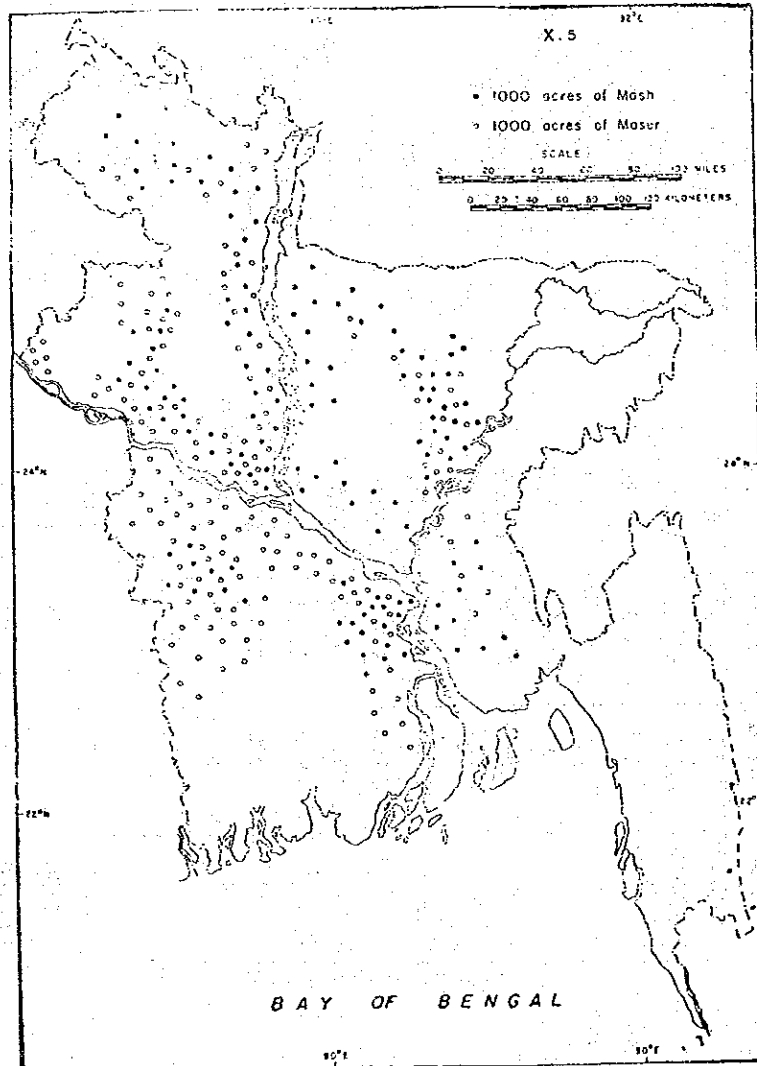
2-2-3. 豆類

豆類は麦類よりも重要な農作物である。すなわち、ダル(Dal)と呼ばれるスープを多くの国民が食料とし、貴重な蛋白資源となっている。ダルは主として次の5種類の豆から作られる。

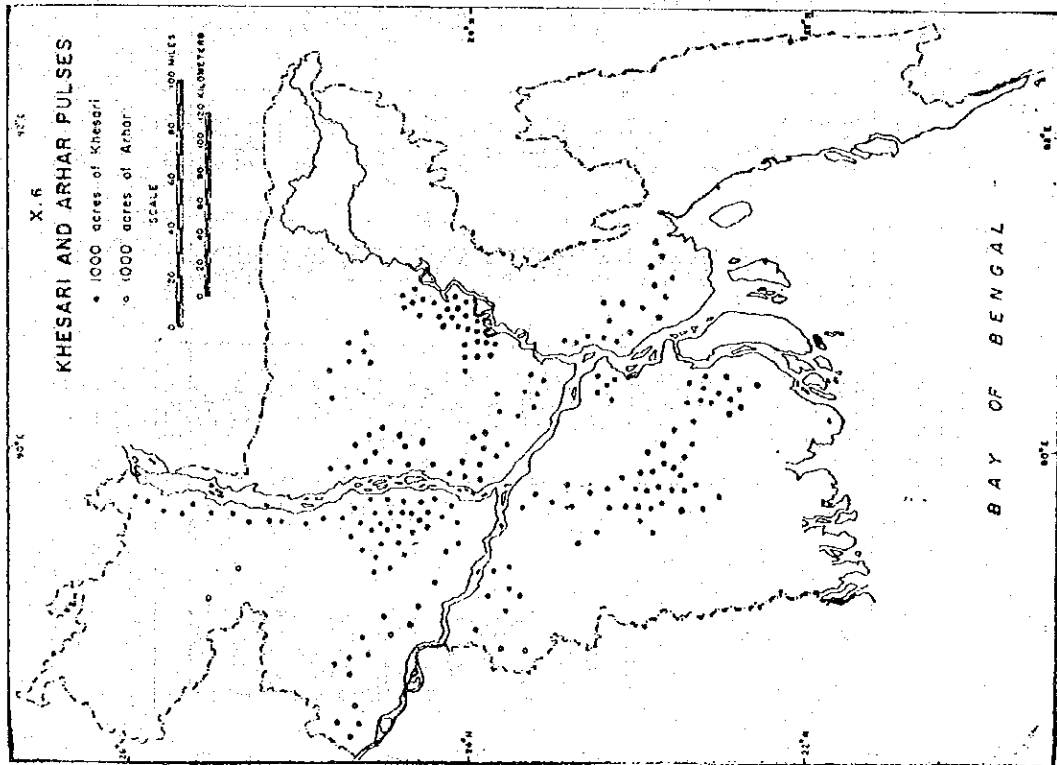
ヒラマメ(Masur)、ガラスマメ(Khesari)、リョクトウ(Moog)、ケツルアズキ(Mash)、アルハー(Arhar)

また、ヒヨコマメ(Char)の生産も全土を通じて多い。

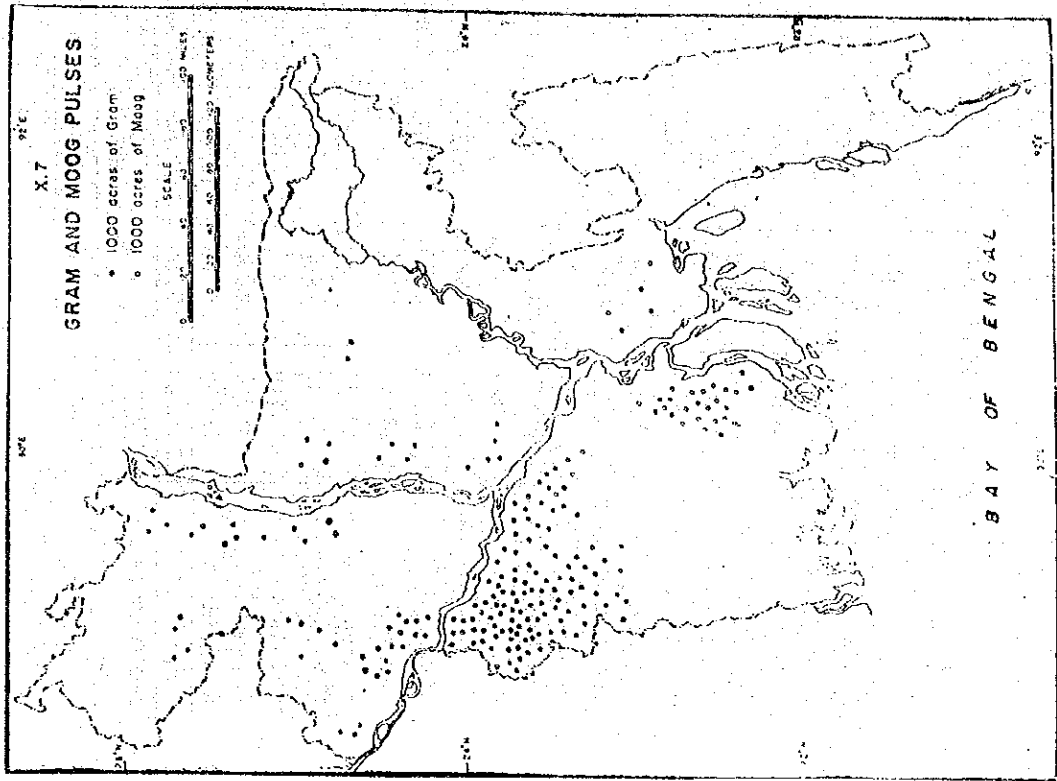
これら豆類の生産分布図が第2-3図であり、作付面積および生産量を示したのが第2-5表である。



第2-3-1図 ケツルアズキ(Mash)と平豆(Masur)の作付分布図



第2-3-3 ヒヨコマメ (Gram) と緑豆 (Moog) の作付分布図



第2-3-2 図 ガラスマメ (Khesori) とアールハの作付分布図

第2-5-1 ケツルズキの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)
Dacca	13930	4900	14477	5042
Mymensingh*	20560	7450	19201	7165
Tangail*	11270	3770	8340	2413
Faridpur	17960	4160	19201	5094
Chittagong	1600	540	1498	518
Hill Tracts	180	60	174	52
Noakhali	2550	650	1924	451
Comilla	6410	2330	3903	1357
Sylhet	690	230	668	223
Rajshahi	1280	4140	1689	5756
Dinajpur	4910	1540	3890	1225
Rangpur	8880	3190	8714	2969
Bogra	5200	1890	3412	1127
Pabna	17360	5750	17512	5624
Khulna	530	160	359	102
Bakerganj*	200	40	151	27
Patuakhali*	60	20	—	—
Jessore	3610	940	2214	485
Kushtia	5600	1680	5051	1338
合 計	122380	43440	112378	40968

* Estimated

第2-5-2 ヒラマメの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)
Dacca	7900	2730	7698	3451
Mymensingh*	9000	2480	9946	3083
Tangail*	3070	920	3285	969
Faridpur	23130	5210	25954	6037
Chittagong	630	180	729	207
Hill Tracts	100	30	99	23
Noakhali	1540	330	1153	238
Comilla	3760	1140	2666	735
Sylhet	290	90	381	107
Rajshahi	30170	8040	32543	10261
Dinajpur	2390	550	1693	375
Rangpur	5280	1860	5424	1831
Bogra	6650	2330	5464	2054
Pabna	18580	6190	19562	6575
Khulna	3260	1120	2243	669
Bakerganj*	8100	1460	5740	1255
Patuakhali*	3310	860	1500	309
Jessore	28910	8360	21955	5701
Kushtia	18850	5400	19608	5150
合 計	174920	49280	162185	48295

* Estimated

第 2 - 5 - 3 緑豆の作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)
Dacca ...	2,130	690	2,242	706
Mymensingh*...	3,900	1,100	3,243	1,035
Tangail* ...	550	140	597	153
Faridpur ...	5,730	1,150	5,529	1,288
Chittagong ...	850	300	643	206
Hill Tracts ...	100	30	113	30
Noakhali ...	3,440	830	2,563	597
Comilla ...	1,810	560	1,210	370
Sylhet ...	360	100	229	634
Rajshahi ...	790	210	991	274
Dinaipur ...	1,710	360	1,040	254
Rangpur ...	3,200	1,120	2,539	878
Bogra ...	440	130	267	91
Pabna ...	560	160	766	239
Khulna ...	780	220	475	140
Bakerganj* ...	16,240	3,430	8,712	2,229
Patuakhali* ...	8,120	1,710	3,990	996
Jessore ...	3,240	790	1,981	443
Kushtia ...	510	110	412	89
合 計	54,460	14,200	37,512	10,692

* Estimated

第 2 - 5 - 4 7ルバーの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)
Dacca ...	60	20	103	36
Mymensingh*...	390	120	396	123
Tangail* ...	60	20	35	13
Faridpur ...	120	30	183	44
Chittagong ...	100	30	123	46
Hill Tracts ...	180	50	187	69
Noakhali ...	20	10	46	12
Comilla ...	20	10	13	4
Sylhet ...	30	10	41	13
Rajshahi ...	980	190	1,246	395
Dinaipur ...	1,050	330	789	213
Rangpur ...	1,080	400	1,122	412
Bogra ...	220	80	203	72
Pabna ...	180	60	239	76
Khulna ...	110	30	57	15
Bakerganj* ...	—	—	—	—
Patuakhali* ...	—	—	—	—
Jessore ...	490	140	415	112
Kushtia ...	4,020	1,280	2,395	652
合 計	9,040	2,880	7,593	2,307

* Estimated

第 2 - 5 - 5 表 ヒヨコマメの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)	作付面積 (エーカー)	生産量 (tons)
Dacca ...	3,390	1,120	3,828	1,257
Mymensingh*...	3,410	1,280	3,857	1,442
Tangail* ...	2,850	770	3,080	875
Faridpur ...	20,740	6,230	24,368	5,368
Chittagong ...	150	40	167	47
Hill Tracts ...	10	7	9	17
Noakhali ...	570	170	479	121
Comilla ...	1,340	410	821	224
Sylhet ...	310	100	300	103
Rajshahi ...	23,000	7,620	24,307	7,576
Dinajpur ...	2,280	660	2,157	547
Rangpur ...	2,580	830	2,664	879
Bogra ...	2,830	1,060	2,701	1,026
Pabna ...	12,070	3,900	11,472	6,907
Khulna ...	850	290	669	186
Bakerganj, ...	3,400	1,200	2,361	751
Patuakhali* ...	2,000	700	970	292
jessore ...	19,310	6,410	20,091	6,081
Kushtia ...	54,150	17,040	50,127	14,311
合 計	155,050	49,670	154,428	47,259

* Estimated

2-2-4 イモ類

タロイモの仲間、最も重要な産物であり、全国で栽培されている。つぎの4種類のタロイモが主として生産されている。

01 (*Amorphophallus campanulatus*)

Man (*Alocasia indica*)

Dsehi (*Calocasia antiquorum*)

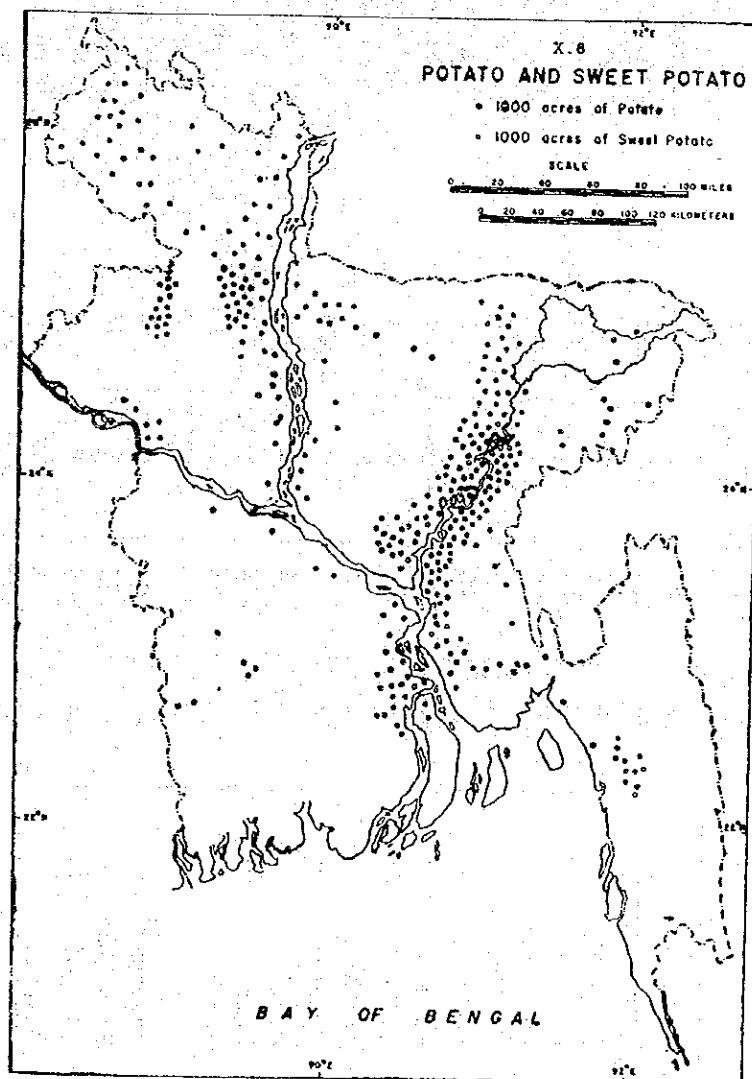
Pani (*Calocasia nymphaeifolia*)

生産は湿った肥沃土、すなわち低湿地の周辺とか河岸で行われ、エーカー当たり3-5トンの収穫がある。

サツマイモも重要な作物であるが、土壌がやゝ乾いた土地を好むため、生産地はやゝ限られてくる。

ジャガイモは近年(1930年代)に導入された作物であるが、急激にその生産を拡大し、主要農作物の一角を占めるようになってきている。

サツマイモとジャガイモの生産分布図を第2-4図に、また産地と生産量を第2-6図に示した。



第2-4図 馬鈴薯及び甘藷の作付分布図

第2-6-1表 甘藷の作付面積と生産量

地	域	1965-70 平均		1970-75 平均	
		作付面積 (エーカー)	生産量 (t)	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)
Dacca	...	9	51	11	58
Mymensingh*	...	26	115	26	111
Tangail*	...	8	32	8	26
Faridpur	...	5	16	6	24
Chittagong	...	5	32	5	31
Hill Tracts	...	2	8	2	13
Noakhali	...	12	75	10	54
Comilla	...	46	204	40	168
Sylhet	...	4	21	4	30
Rajshahi	...	2	9	3	10
Rangpur	...	6	26	6	30
Dinajpur	...	3	12	2	10
Bogra	...	3	12	4	12
Pabna	...	6	26	6	30
Khulna	...	2	7	1	6
Bakerganj*	...	14	63	14	65
Patuakhali*	...	6	22	5	20
Jessore	...	1	4	1	3
Kushtia	...	1	3	0.9	3
合計		161	738	163	813

* Estimated

第2-6-2表 馬鈴薯の作付面積と生産量

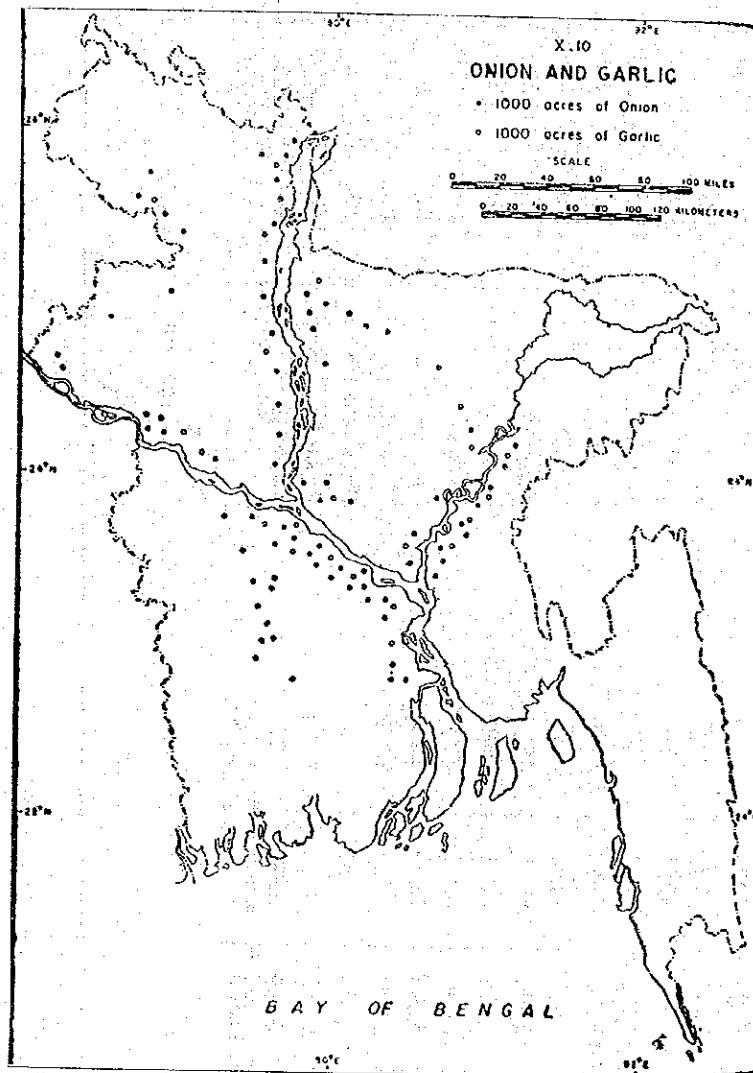
地	域	1965-70 平均		1970-75 平均	
		作付面積 (エーカー)	生産量 (t)	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)
Dacca	...	27	169	39	252
Mymensingh*	...	21	48	21	43
Tangail*	...	3	7	3	6
Faridpur	...	2	7	1	5
Chittagong	...	7	41	8	42
Hill Tracts	...	2	7	1	6
Noakhali	...	5	28	3	16
Comilla	...	18	57	23	76
Sylhet	...	11	40	11	48
Rajshahi	...	20	44	20	47
Dinajpur	...	17	49	13	37
Rangpur	...	19	76	21	95
Bogra	...	20	57	20	49
Pabna	...	4	10	4	11
Khulna	...	5	24	4	18
Bakerganj*	...	4	14	3	12
Patuakhali*	...	1	2	0.4	1
Jessore	...	2	7	2	7
Kushtia	...	1	4	1	5
合計		189	641	206	784

* Estimated

2-2-5 野菜類

おもな野菜類としては、カブ、ニンジン、タマネギ、ニンニク、ナス、トマト、オクラ、キャベツ、カリフラワー等がある。

第2-5図にはタマネギとニンニクの生産地図を、また第2-7表には作付面積と生産量を示した。



第2-5図 玉葱とニンニクの作付分布図

第2-7-1 玉葱の作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生 産 量 (t)	作付面積 (エーカー)	生 産 量 (t)
Dacca	7,350	16,740	7,798	17,707
Mymensingh*	7,000	16,000	7,356	16,857
Tangail*	3,000	5,000	2,372	3,342
Faridpur	17,190	35,700	15,542	27,732
Chittagong	800	1,820	811	1,644
Hill Tracts	220	530	239	455
Noakhali	770	1,040	780	937
Comilla	—	—	5,526	13,003
Sylhet	580	1,460	644	1,578
Rajshahi	5,050	13,100	5,927	11,036
Dinajpur	3,840	7,870	3,852	6,826
Rangpur	6,780	15,560	6,766	14,954
Bogra	4,220	9,600	4,519	6,799
Pabna	5,520	12,640	5,811	12,834
Khulna	1,930	5,290	1,552	4,286
Bakerganj*	2,000	2,800	1,894	2,377
Patuakhali*	500	700	451	553
Jessore	3,680	9,370	3,481	7,891
Kushtia	1,620	3,760	2,381	4,974
合 計	81,420	180,800	77,702	155,785

* Estimated

第2-7-2 ニンニクの作付面積と生産量

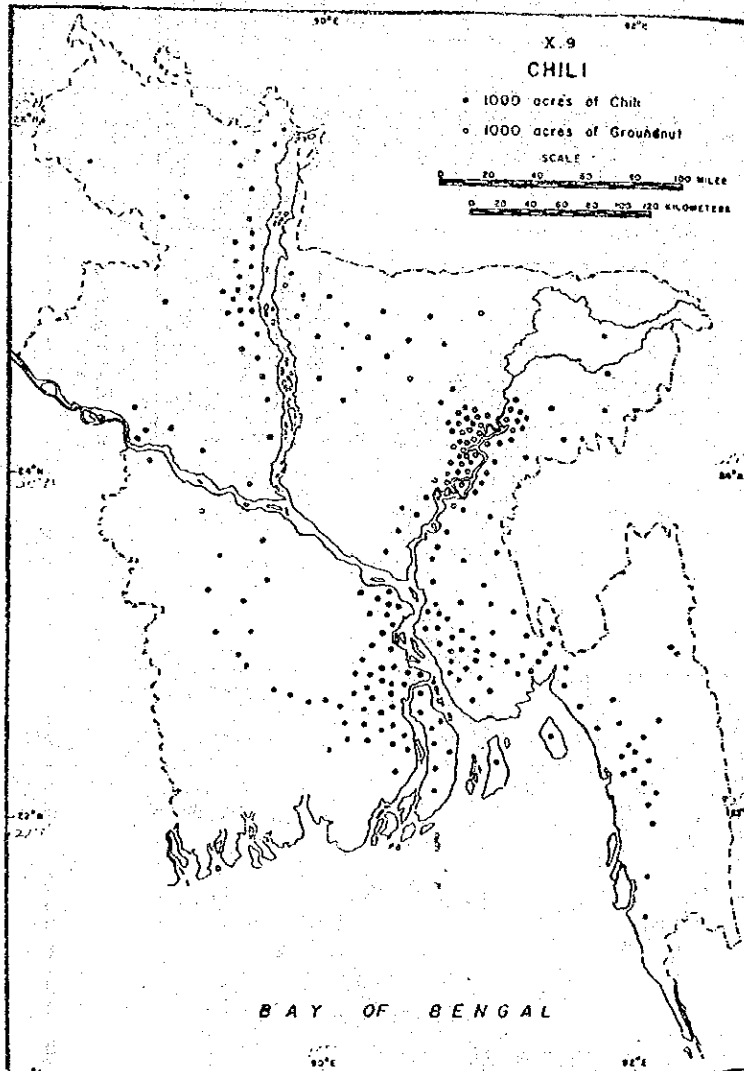
地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生 産 量 (t)	作付面積 (エーカー)	生 産 量 (t)
Dacca	2,300	3,320	2,285	3,505
Mymensingh*	4,500	6,750	4,065	5,959
Tangail*	800	1,100	724	899
Faridpur	6,940	9,380	6,726	8,819
Chittagong	410	730	543	811
Hill Tracts	190	330	210	322
Noakhali	840	1,000	884	1,069
Comilla	4,150	6,320	3,080	4,368
Rajshahi	1,350	2,380	1,266	1,782
Sylhet	300	430	275	420
Dinajpur	1,710	2,750	1,943	2,634
Rangpur	2,690	4,290	2,719	4,284
Bogra	980	1,530	1,039	1,261
Pabna	1,500	2,110	1,627	2,238
Khulna	570	1,530	461	830
Bakerganj*	2,000	2,500	1,871	2,015
Patuakhali*	550	550	368	342
Jessore	1,280	2,120	1,227	1,885
Kushtia	940	1,350	1,128	1,779
合 計	34,000	50,470	32,441	45,222

* Estimated

2-2-6 香辛料

トーガラシは最も重要な香辛料であり、その他ショウガ、ウコンの一種 (Turmeric)、カシアの葉等が栽培されている。

これらの生産分布を示したのが第2-6図であり、第2-8表にはトーガラシの作付面積および収量を示した。

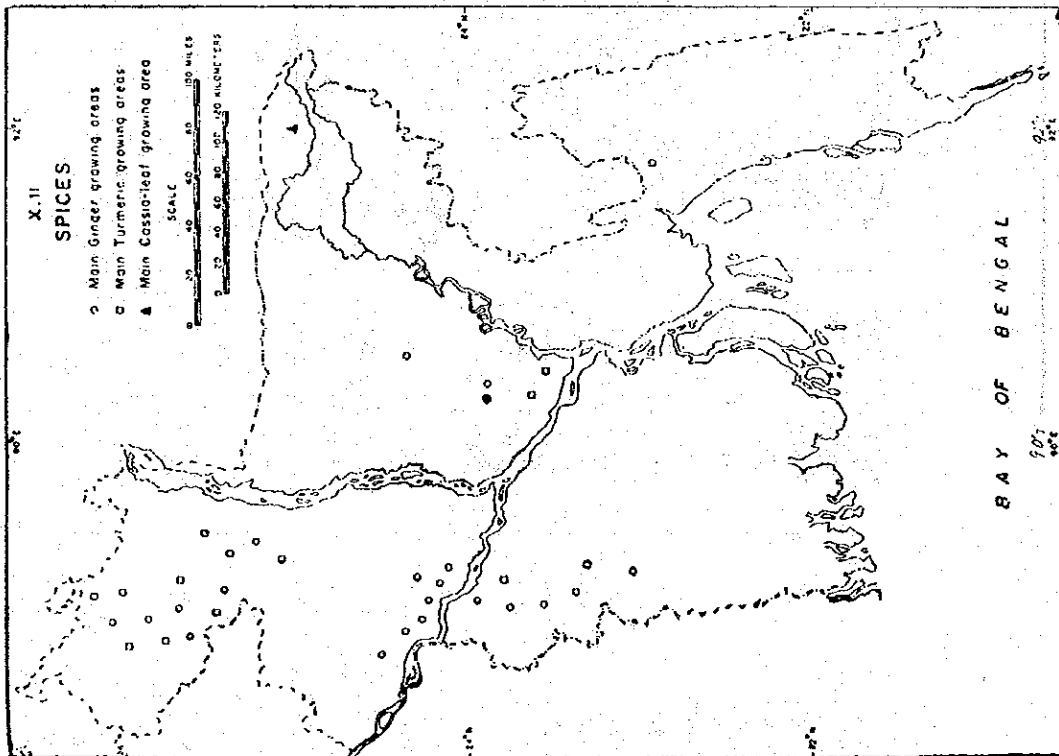


第2-6-1図 唐辛の作付分布図

第2-8表 唐辛の作付面積と生産量

地 域	1965-70 平均		1970-75 平均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)
Dacca ...	6,440	1,920	6,940	1,850
Mymensingh* ...	17,920	5,000	17,186	4,924
Tangail* ...	3,420	1,000	3,418	920
Faridpur ...	13,540	3,430	14,079	3,572
Chittagong ...	16,460	4,850	13,761	4,550
Hill Tracts ...	1,790	700	1,556	530
Noakhali ...	18,930	4,460	17,639	3,953
Comilla ...	24,520	6,790	25,295	6,142
Sylhet ...	7,530	2,500	6,567	1,970
Rajshahi ...	3,000	1,080	3,869	1,109
Dinajpur ...	3,380	1,420	4,423	1,186
Rargpur ...	12,860	4,050	13,472	4,566
Bogra ...	13,500	4,320	14,802	5,211
Pabna ...	4,240	1,170	4,427	1,260
Khulna ...	3,870	1,290	3,461	977
Bakerganj* ...	30,000	7,200	22,530	5,250
Patuakhali* ...	18,000	4,300	14,440	2,977
Jessore ...	4,340	1,430	4,728	1,482
Kushtia ...	1,770	570	2,262	671
合 計	205,510	57,480	181,765	53,100

* Estimated

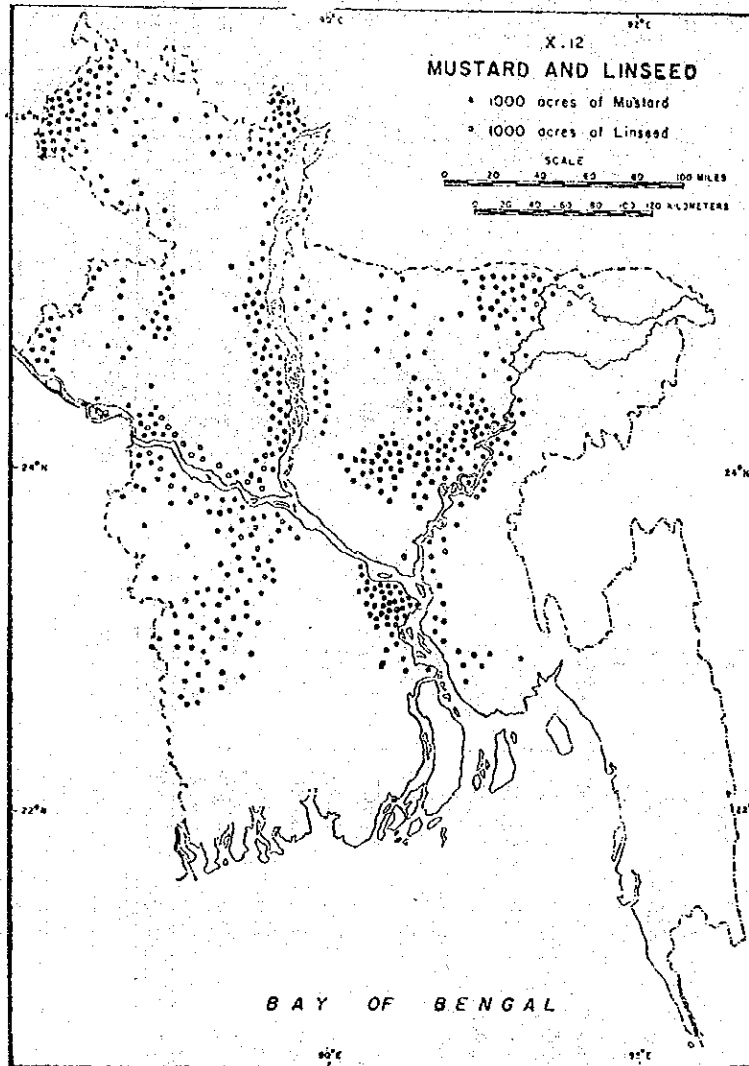


第2-6-2図 香辛料の作付分布図

2-2-7 油料作物

油料作物として最も重要なのはナタネであるが、その油は食料として国内生産では若干不足で、輸入を行なっている。その他アマの生産も大である。その生産地と収穫量を示したのが第2-7図、および第2-9-1表である。

また、ゴマも油料作物として重要であり、その油は工業用としても多く使われている。ゴマの産地及びその生産量を、第2-8図及び第2-10表に示した。



第2-7図 ナタネ及びアマの作付分布図

第2-9-1表 ナタネの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)
Dacca	51,890	10,410	52,440	11,474
Mymensingh*	66,000	14,000	57,589	14,075
Tangail*	24,000	5,000	25,263	4,796
Faridpur	47,090	8,650	38,873	7,031
Chittagong	1,270	240	813	160
Hill Tracts	8,300	2,310	8,626	1,977
Noakhali	1,120	170	865	138
Comilla	22,480	5,700	19,782	4,954
Sylhet	17,200	3,690	14,617	3,893
Rajshahi	43,470	10,110	44,912	10,370
Dinajpur	67,780	14,410	51,133	12,001
Rangpur	44,890	13,430	43,750	12,340
Bogra	16,990	4,690	13,026	3,225
Pabna	30,520	6,120	44,467	12,607
Khulna	8,840	2,100	6,449	1,591
Bakerganj	3,800	1,000	3,221	699
Patuakhali	860	170	487	81
Jessore	38,780	8,840	38,529	8,837
Kushtia	20,180	4,180	15,284	3,047
合 計	515,550	110,090	940,323	113,296

* Estimated

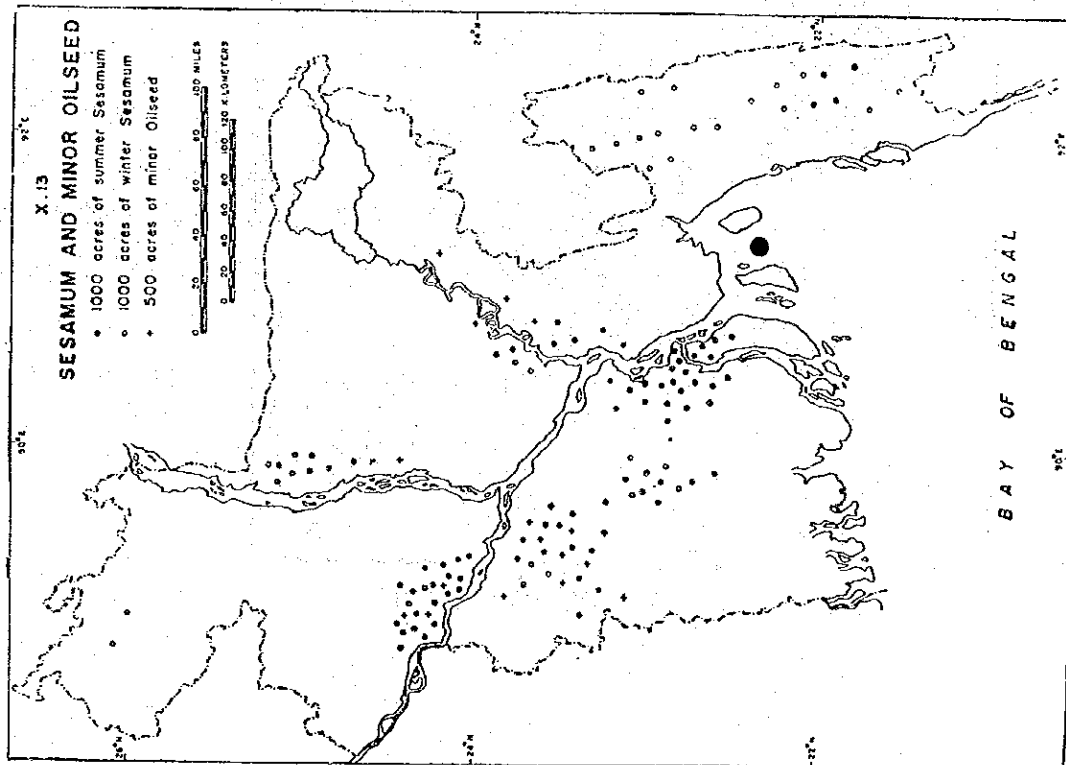
第2-9-2表 7マの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均		1970-75 平 均	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)
Dacca	910	150	230	44
Mymensingh*	1,460	260	534	144
Tangail*	500	120	487	97
Faridpur	5,300	1,080	6,328	1,222
Chittagong	40	10	18	3
Hill Tracts	—	—	—	—
Noakhali	1,260	200	382	69
Comilla	1,960	320	414	75
Sylhet	5,450	1,110	2,815	559
Rajshahi	3,590	850	5,724	1,328
Dinajpur	290	60	120	24
Rangpur	420	100	423	103
Bogra	110	20	136	25
Pabna	10,660	1,900	9,643	1,768
Khulna	110	20	102	17
Bakerganj	—	—	—	—
Patuakhali	—	—	—	—
Jessore	2,530	460	1,670	323
Kushtia	6,880	1,350	3,577	666
合 計	41,470	8,010	32,603	6,435

* Estimated

第2-10表 コマの作付面積と生産量

地域	1960-65 平均			
	夏		冬	
	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)	作付面積 (エーカー)	生産量 (t)
Dacca ...	7,480	1,410	2,384	476
Mymensingh ...	5,680	992	5,446	980
Faridpur ...	18,120	3,567	4,144	875
Chittagong ...	100	17	52	10
Hill Tracts ...	60	12	20,660	4,346
Noakhali ...	600	94	76	10
Comilla ...	5,900	987	10	2
Sylhet ...	1,220	290	230	50
Rajshahi ...	5,760	1,008	3,174	614
Dinajpur ...	740	137	1,328	273
Rangpur ...	840	166	1,334	297
Bogra ...	300	61	512	108
Pabna ...	10,700	2,086	1,740	320
Khulna ...	4,140	789	1,116	208
Barisal ...	16,660	2,206	—	—
Jessore ...	6,480	1,273	2,662	527
Kushtia ...	480	100	1,338	262
合計	85,260	15,199	46,806	9,358



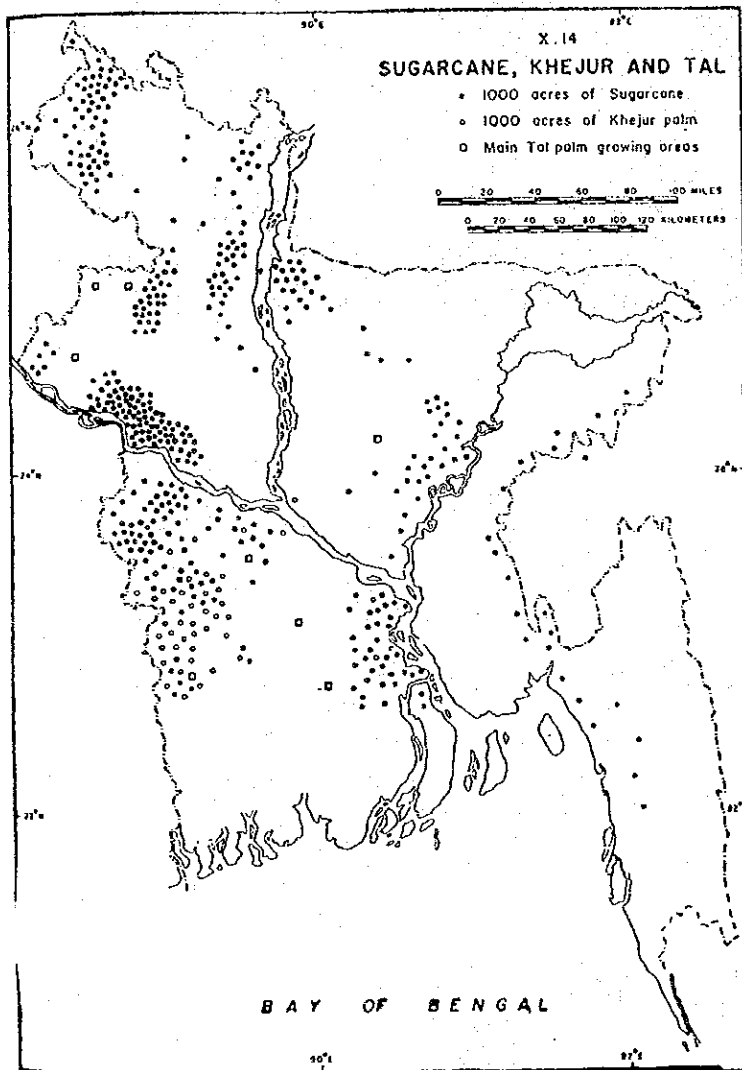
第2-8図 コマの作付分布図

2-2-8 糖料作物

サトウキビは Bangladesh の原産であり、ジュートの栽培が行なわれるまでは最も生産の多い農作物であった。しかし、ジュートの栽培の流行とともに一時その生産量は減少した。そしてジュートの生産の低下にともなって、再びその生産量を増加しつつある。生産は乾燥した砂質壤土の地域を中心としており、エーカー当り7トンの生産量がある。

糖料作物としては、そのほかナツメヤシとパラミラヤシがある。

糖料作物の分布図と、サトウキビの生産量を第2-9図と第2-11表に示した。



第2-9図 糖料作物の作付分布図

第2-11表 サトウキビの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平 均	
	作 付 面 積 (1,000エーカー)	生 産 量 (1,000 t)
Dacca ...	18	317
Mymensingh*...	32	523
Tangail* ...	2	33
Faridpur ...	32	601
Chittagong ...	6	120
Hill Tracts ...	1	16
Noakhali ...	5	65
Comilla ...	6	83
Sylhet ...	6	104
Rajshahi ...	87	1,811
Dinapur ...	57	1,027
Rangpur ...	39	566
Bogra ...	20	369
Pabna ...	17	317
Khulna ...	5	92
Bakerganj* ...	14	250
Patuakhali* ...	5	65
Jessore ...	16	374
Kushtia ...	43	787
合 計	411	7,520

* Estimated

2-2-9 ジュート

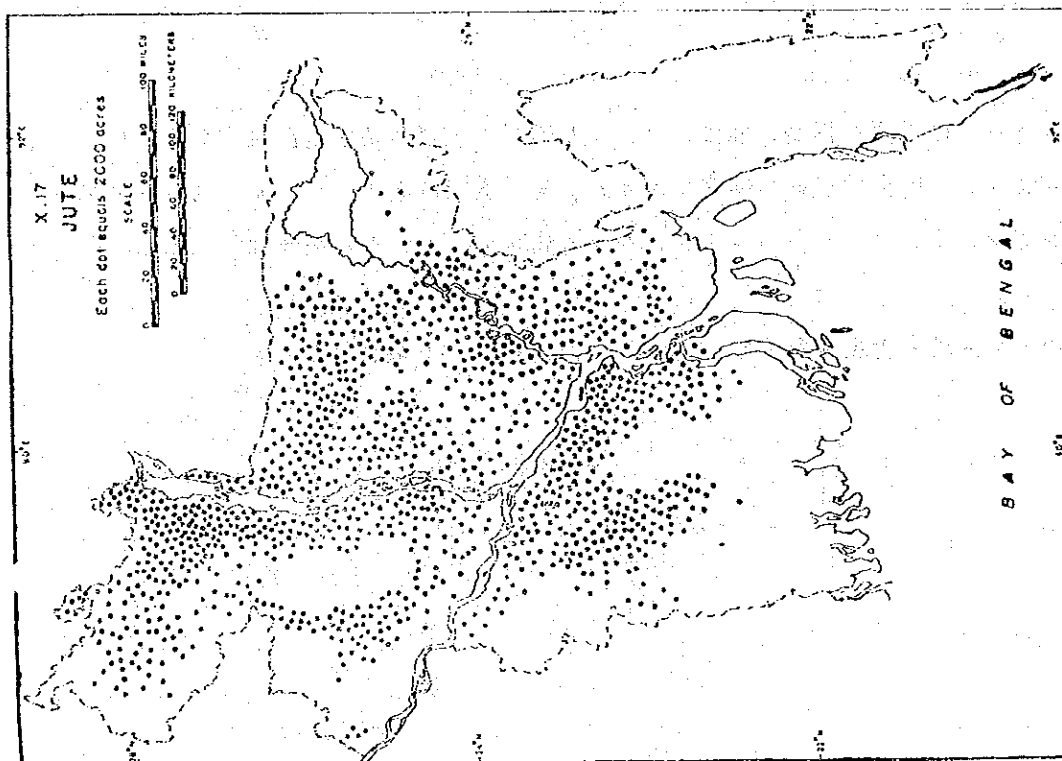
ジュートは重要な換金作物であり、また国としては重要な輸出品である。しかしながら、近年においては化学繊維の開発におされ、その生産は低下している。主たる生産地は、マイメンシン、ラングプール、コミラ、ダッカ地区で、これらの地域は“Jute belt”と呼ばれている。

その分布図と生産量を第2-10図および第2-12表に示した。

第2-12表 シュートの作付面積と生産量

地 域	1965-70 平均		1970-75 平均	
	作付面積 (千エーカー)	生産量 (千バール)	作付面積 (千エーカー)	生産量 (千バール)
Dacca	207	630	171	546
Mymensingh*	440	1,355	387	1,013
Tangail*	125	325	120	327
Faridpur	252	726	212	567
Chittagong	0.6	1.6	0.3	0.9
Hill Tracts	0.3	0.4	0.6	1.4
Noakhali	37	109	20	58
Comilla	191	587	123	399
Sylhet	22	70	20	55
Rajshahi	97	283	67	173
Dinajpur	111	303	81	179
Rangpur	319	906	335	926
Bogra	70	206	45	118
Pabna	113	347	75	202
Khulna	40	127	34	98
Bakerganj*	36	101	28	69
Patuakhali*	2	4	1	2
Jessore	140	439	147	454
Kushtia	44	113	66	172
合 計	2,247	6,633	1,940	5,167

* Estimated



第2-10図 シュートの作付分布図

2-2-10 その他の工芸作物

その他の工芸作物には、茶、タバコ、ワタ、ラミー等があるが、茶を除いては大きな生産をあげていない。

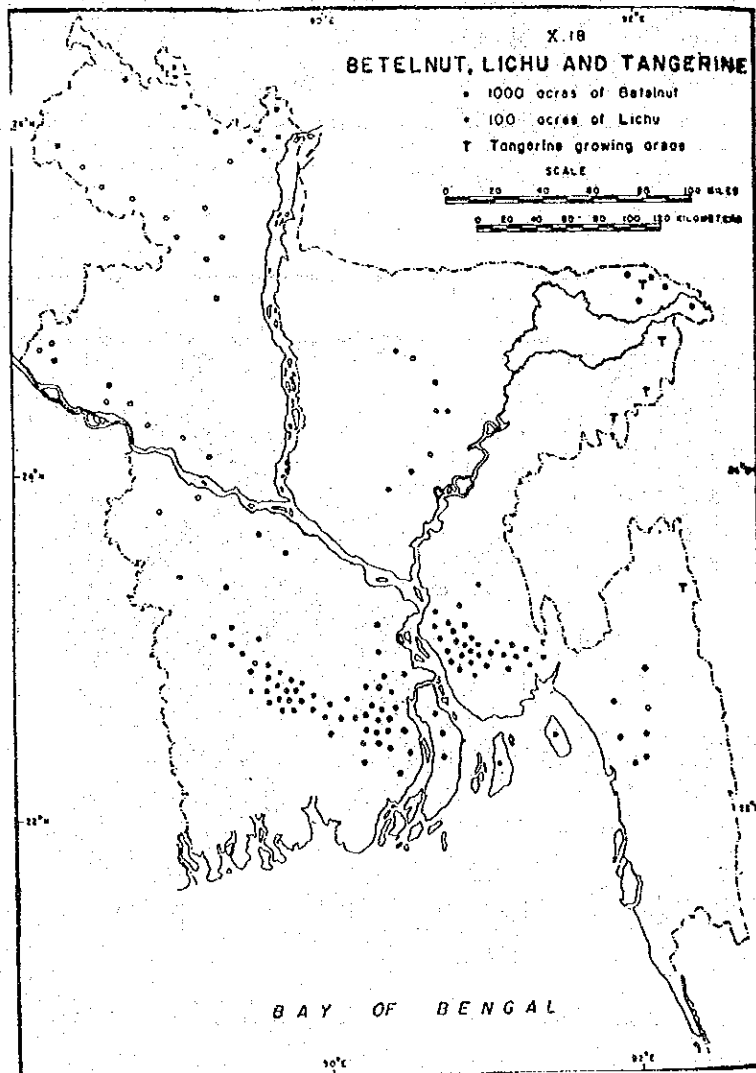
茶は東部のインドとの国境地帯が主生産地であり、いわゆるダージリン系の良い茶を生産する。その生産量は年々増加しており、1970-1975年の平均では109,337エーカーの茶園から24,949トンの茶が生産され、輸出産物のひとつとなっている。

2-2-11 果実類

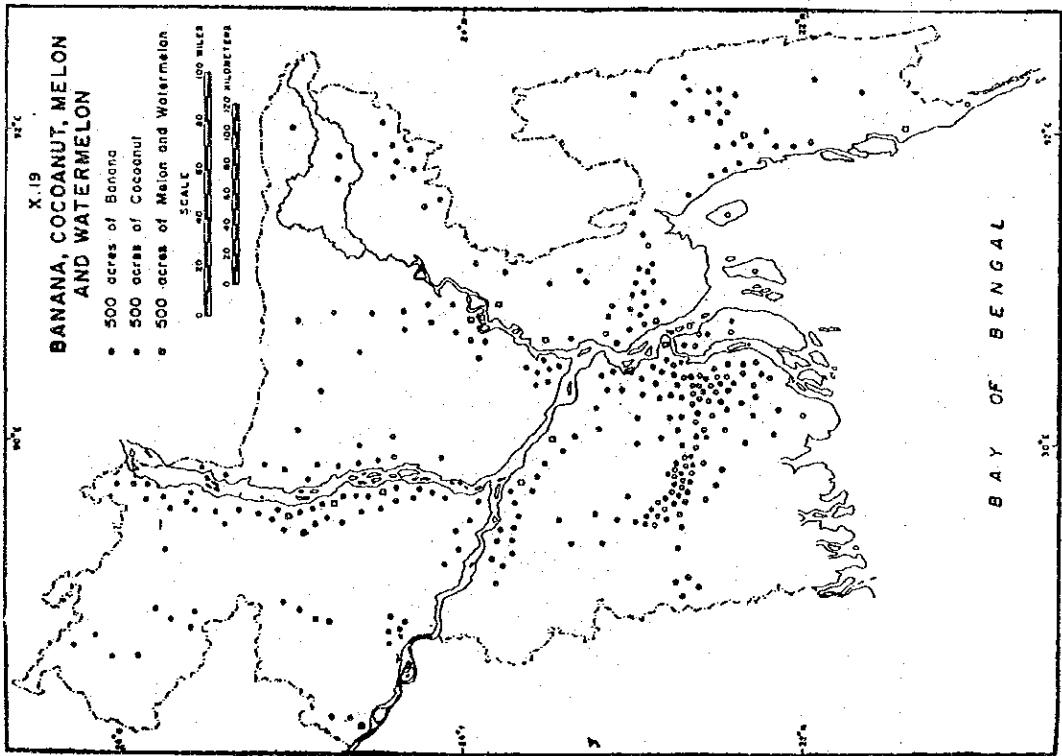
同国は地理的に熱帯から亜熱帯にかけて位置するため果樹の種類は豊富であり、またその生産量も多い。いまその主な果実類を例挙すれば、次のようなものがある。

ピンロウジュ、リーチャー、パパイヤ、柑橘類、メロン、スイカ、ジャックフルーツ

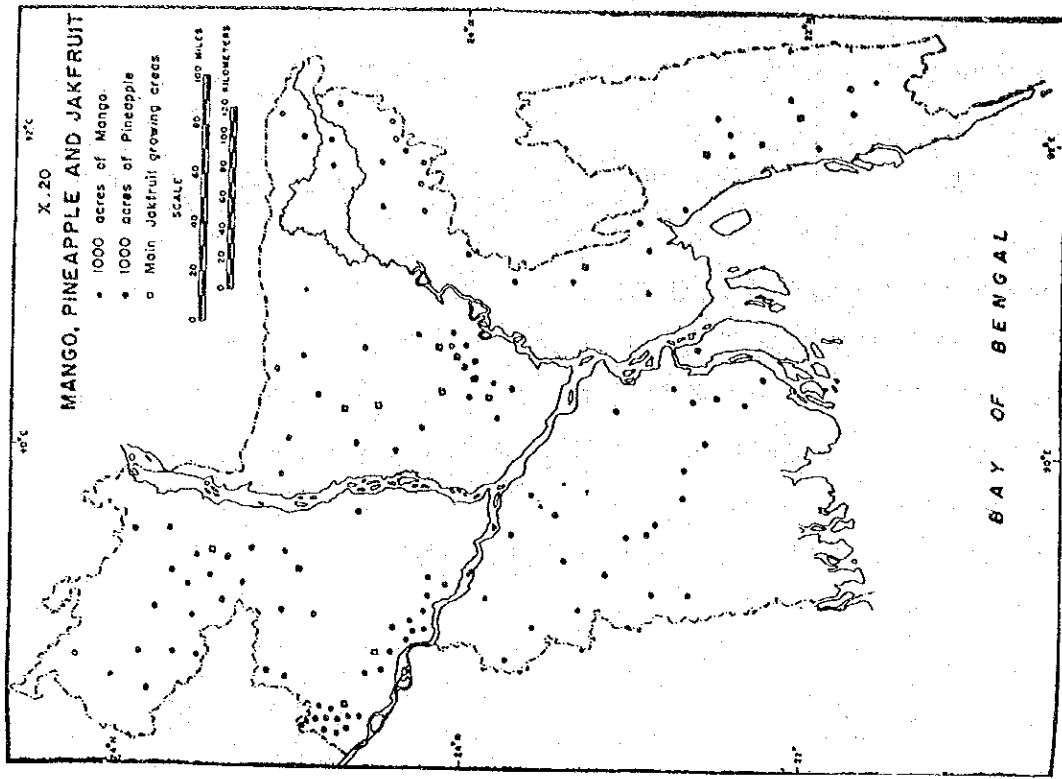
これらの主生産地を図示したのが第2-11図である。



第2-11図 ピンロージュ・レイシ・柑橘類の作付分布図



第2-13図 バナナ・ココナッツ・メロン及びスイカの
作付分布図



第2-12図 マンゴー・パイナップル・ジャックフルーツの
作付分布図

2-3 畜産業

家畜の飼養頭数は、増加の一途をたどっている。特に役畜として重要な位置を占めている牛および水牛の数は、順調に増加している。また、牛は同国の9割をしめる回教徒にとって重要な蛋白源である。しかしながら、その質の改良については今後の研究開発にまつところが大きい。

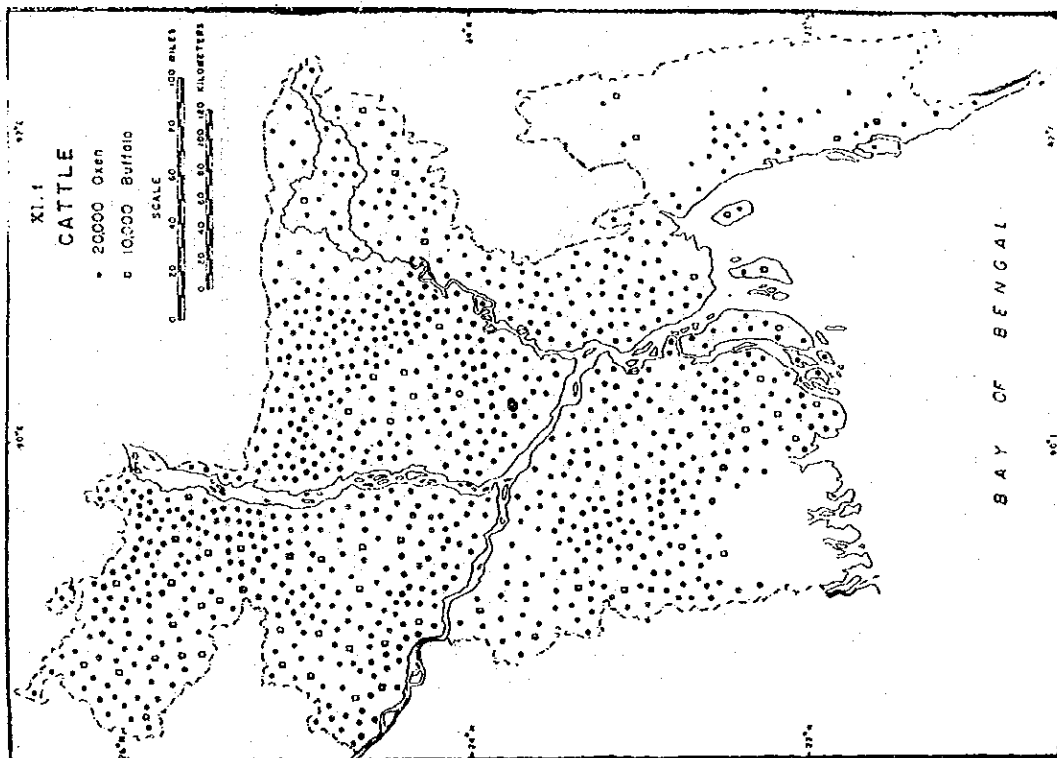
主要な家畜についての飼養状況の推移を示したのが第2-13表である。また第2-14図には、牛および水牛の飼養分布を示した。

第2-13表 家畜飼養状況の推移

(単位：1000頭)

	1965	1970	1972
牛	22370	26800	26000
水牛	550	670	700
羊	9150	720	730
山羊	23323	11400	11900
ニワトリ	4000	27010	28500
アヒル	900	4700	5000

資料：Statistical Year Book for Asia and the Pacific 1973



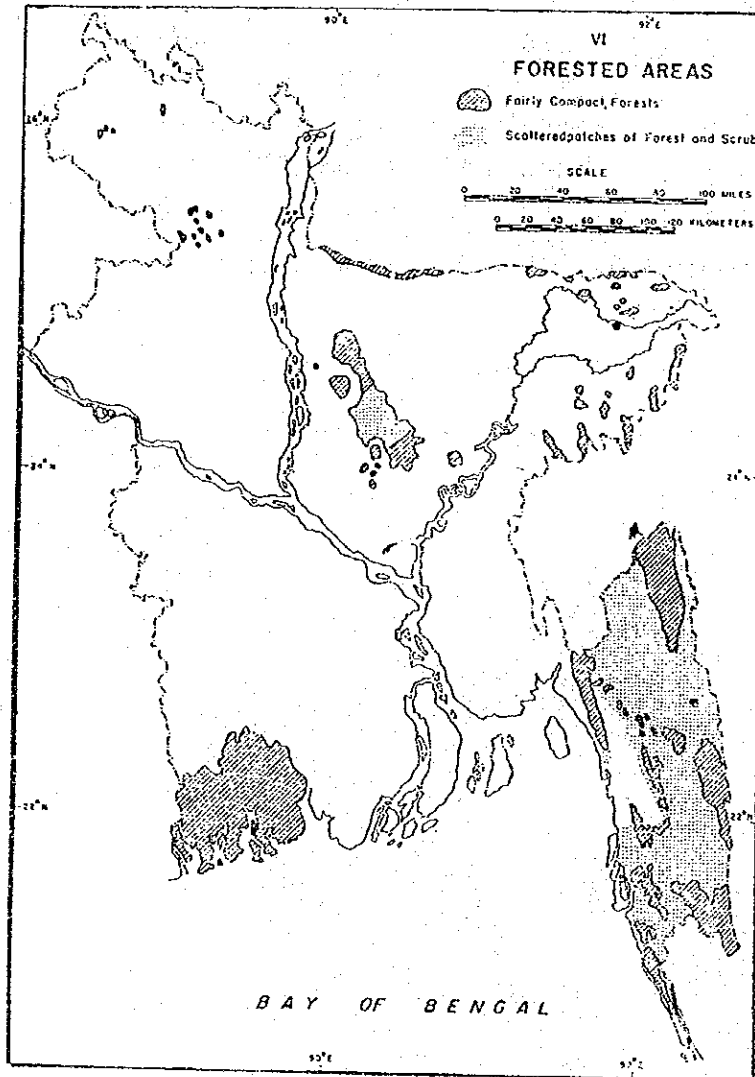
第2-14図 牛及び水牛の飼養分布図

2-4 林業

国の大部分が農地であり、しかも人口が多いことから気候的には森林に適しているといっても、森林のたりなさ、すなわち木材の不足は極めて大きい。林学の専門家によれば、パングラデッシュのためには、国土の25%の森林を確保する必要があるとのことであるが、現在は総面積の9%にしか達していない。

森林の分布を図示したのが第2-15図で、その面積を第2-14表に示した。

主要な樹種は、中部・北部の森林ではSal (*Shorea robusta*) であり、河口付近ではGewa (*Excoecaria agallocha*) と Shumdri (*Heritiera fomes*) である。また東部山地では、ビルマに続いてGarjan (*Dipterocarpus*) の仲間が多類見られる。



第2-15図 森林分布図

第 2 - 14 表 区分別森林面積

Sl. No.	地 区	平方マイル							
		保護林	保安林	Vested Forests	入合林	公有林	村有林	私有林	合 計
1.	2	3.	4	5	6	7	8	9.	10
1.	Sundarbans.	2227.96	—	—	—	—	—	—	2227.96
2.	Northern Division.	3.42	10.55	28.86	19.25	—	—	—	56.08
3.	Tangail Division.	—	—	59.22	46.97	—	—	—	106.19
4.	Mymensingh Division.	—	—	6.63	169.41	—	—	—	176.04
5.	Dacca Division.	68.99	—	—	32.27	—	—	—	101.26
6.	Sylhet Division	150.99	—	—	44.63	97.39	7.84	20.03	320.88
7.	Chittagong Hill Tracts(N)	637.95	—	—	—	668.67	—	—	1306.62
8.	Chittagong Hill Tracts(S)	318.42	—	—	—	2726.46	—	—	3044.88
9.	Cox's Bazar Division.	504.97	48.00	—	4.79	—	—	—	557.76
10.	Chittagong Division.	456.04	87.62	12.33	20.63	—	—	—	576.62
11.	Comilla Division.	—	—	—	3.53	—	—	—	3.53
12.	Jhoom Control Division.	—	51.15	—	—	—	—	—	51.15
13.	Coastal Afftn Chittagong.	—	—	—	28.58	—	3.53	—	32.11
14.	Coastal Noakhali.	—	—	—	—	—	2.25	—	2.25
15.	Coastal Barisal.	24.57	—	—	—	—	8.50	—	33.07
16.	Forest Ext(North)	—	—	—	—	—	0.10	—	0.10
17.	Forest Ext(South)	0.2	—	—	—	—	0.05	—	0.07
18.	Silvicultural Research.	—	—	—	—	—	1.62	—	1.62
19.	Forest Res.Instt.	—	—	—	—	—	0.10	—	0.10
		4393.43	197.32	101.04	370.06	3492.52	23.99	20.03	8598.39

林産物としては勿論木材がその主たるものであるが、建築材、家具材などとして消費されている。家具材として有用な材は少なくはなっているが、Teak, Jarul, Gamar などの生産がある。

農家の燃料としては種々の材が用いられているが、不足はいちじるしい。

竹材は林産物のなかで、極めて重要な位置をしている。建物の屋根あるいは壁材料として、また大きな建築の足場丸太として多く利用されている。またチッタゴンには竹材を原料とする製紙工場があり、特異な存在となっている。

林産物の生産高を示したのが第 2 - 15 表である。

第 2 - 15 表 林產物生產量

(1965-70 年 平均)

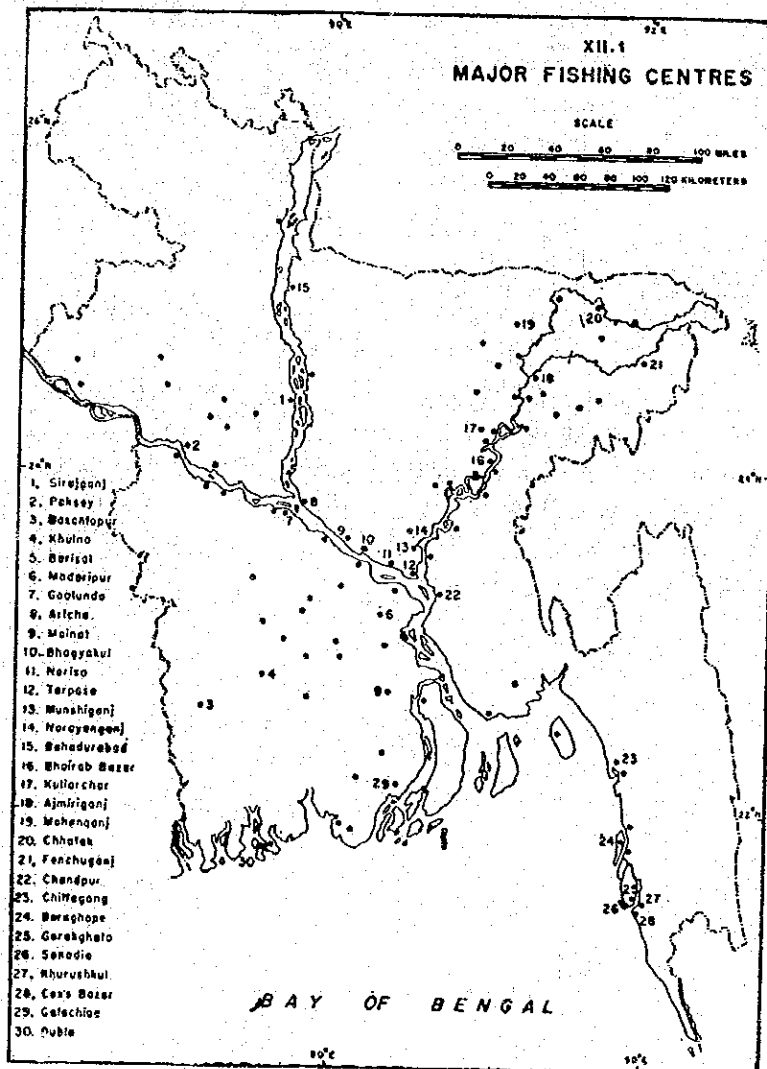
地 区	生 產 量 (1,000 cft)		
	木 材		
Chittagong	127275
Cox's Bazar	190250
Sylhet	51825
Chittagong Hill Tracts(North)	1,679.00
Chittagong Hill Tracts(North)	89325
Jhum Control	3225
Sunderbans	15,357.77
Dacca	39575
Mymensingh	475.00
Tangail	233.00
Northern	51.00
Comilla	159.55
		合計	<u>22,970.07</u>
	薪 炭		
Chittagong	1,897.25
Cox's Bazer	1,984.27
Sylhet	678.50
Chittagong Hill Tracts(North)	966.00
Chittagong Hill Tracts(North)	2,366.77
Jhum Control	493.50
Sunderbans	17,776.25
Dacca	398.25
Mymensingh	1,327.00
Tangail	591.70
Northern	132.50
Comilla	39.24
		合計	<u>28,651.23</u>
	竹 (百万 cft)		
Chittagong
Cox's Bazer
Sylhet
Chittagong Hill Tracts(North)	52.15
Chittagong Hill Tracts(South)
Mymensingh
Tangail
		合計	<u>52.15</u>

2-5 水産業

バングラデシュとは、魚を食べる人という意味があるほど、この国民は魚を蛋白源としている。しかし、その殆どが自家消費的であり、どの位の漁獲高があるのか不明である。統計によれば30万トンの生産といわれるが、栄養学的にみて少なくとも60万トンの消費があるのではないかと云われている。

養魚を行う条件は、地理的には十分そなわっているが、雑草 (Water-hyacinth, Topa, Pana など) が水面をおよび、養魚を困難にしている。そのため、養魚池は沢山あるがその生産性は極めて低い。

主要な水産業のセンターを図示したのが第2-16図で、養魚池の数とその面積を示したのが第2-16表である。



第2-16図 主な水産業センター

第 2 - 16 表 養魚池數

地 域	養 魚 池 數	面 積
Noakhali ...	43,747	49,000
Faridpur ...	38,517	22,900
Mymensingh ...	26,845	28,100
Comilla ...	26,230	70,000
Dacca ...	19,394	24,500
Khulna ...	17,649	11,000
Bogra ...	16,988	24,000
Rajshahi ...	16,179	67,900
Dinajpur ...	15,109	23,200
Jessore ...	14,274	12,000
Barisal ...	7,388	48,200
Thittagong ...	6,985*	51,000
Rangpur ...	5,016	13,500
Sylhet ...	4,699	2,000 (*)
Kushtia ...	3,330	4,000
Pabna ...	1,805	10,200
Hill Tracts ...	200	100(**)
合 計	264,355	463,500

* From the official leaflet (EPGP, Dacca, 1958) — 'Make full use of your Ponds' by Dr. Nazir Ahmed.

** Compiled from Plot Survey, etc, 1944-45, A.S.M. Ishaque, Alipore, 1945.

(*) Definitely underestimated.

(**) Estimated by the author.

3. 教育制度と農林業教育

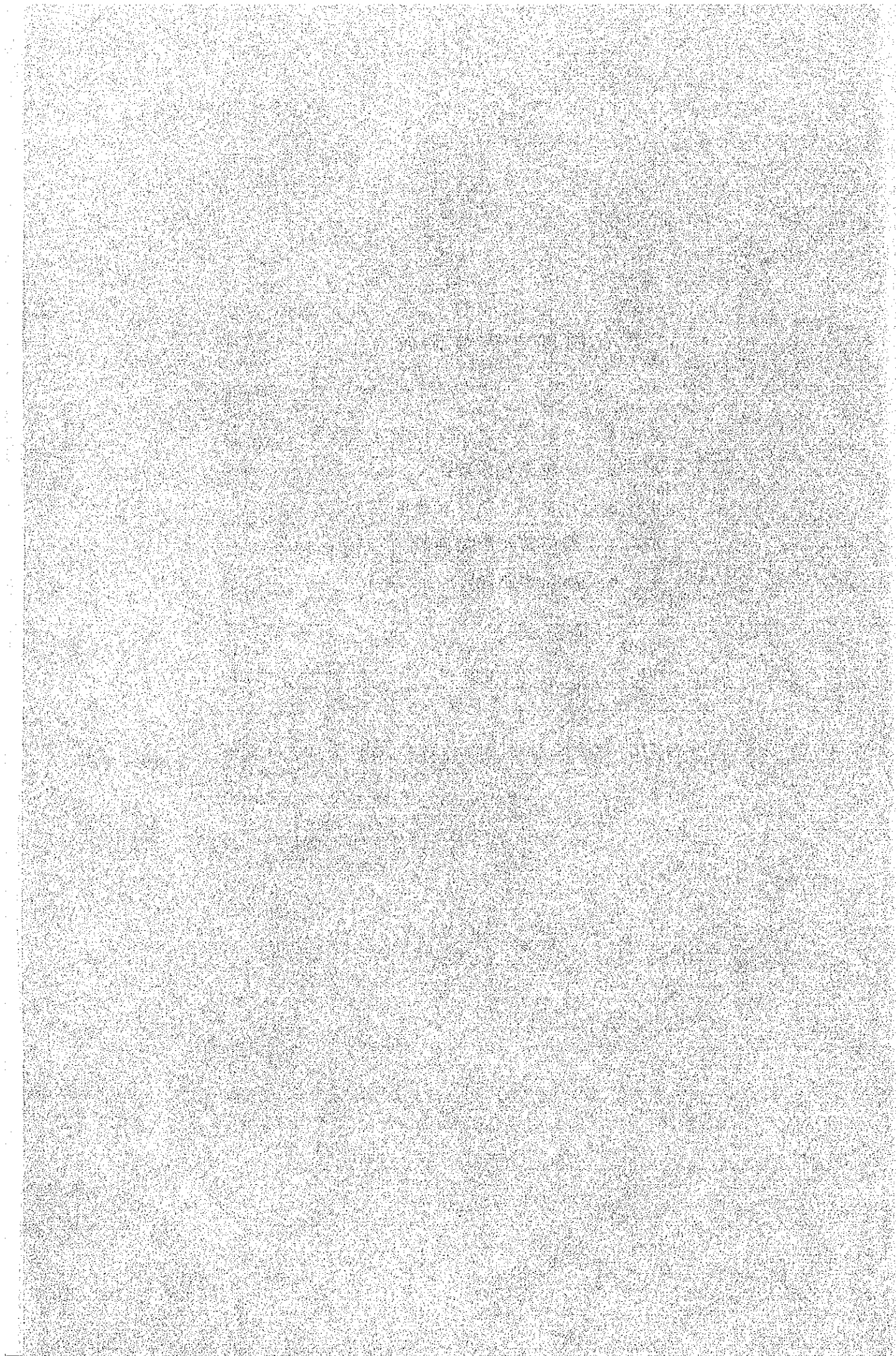
3-1. バングラデシュにおける教育

3-2. 学校教育の概観

3-3. バングラデシュ農業大学

3-4. 農業普及訓練施設

3-5. 農民の訓練



3. 教育制度と農林業教育

3-1 バングラデシュにおける教育

1971年の独立後10年を経過しようとしている政府にとって、最大の問題は3つある。

即ち、

- a 失業者対策
- b 貧困対策
- c 栄養失調

である。^① しかも、政府の最も重要で深刻な問題は飢餓である。7100万人(1974年)の人口を有するこの国の人口増加率は3%である。同じ増加率が続くとする、1980年には約8490万人の人口を抱えていることになる。

この状況を打開するために農業の発展が大いに期待され、併行して経済発展も重要視されている。

ラーマン首相(Prime Minister, Shah Azizur Rahman)は1980年12月に、祖国の発展のために科学(Science)の学習に、より一層力を入れるよう学生に呼びかけている。^② 対象は小学校と中等学校(Primary, High School)の生徒であり、科学・技術面の教育を重視する風潮が認められる。^③ また、シャムスル外務大臣(Foreign Minister Prof. Mohammad Shamsul)は、同月政府が第2次5ヶ年計画の期間中に芸術と工芸(Arts, Crafts)をカレッジ水準で発展させるための詳細な計画がある^④ことを言明している。

バングラデシュは教育による豊かな国づくりを指向していると考えられる。

① Ministry of Planning Commission Education section の Chodhur, A.H. 氏の言

② Bangladesh Times, Wednesday, Dec. 10, 80.

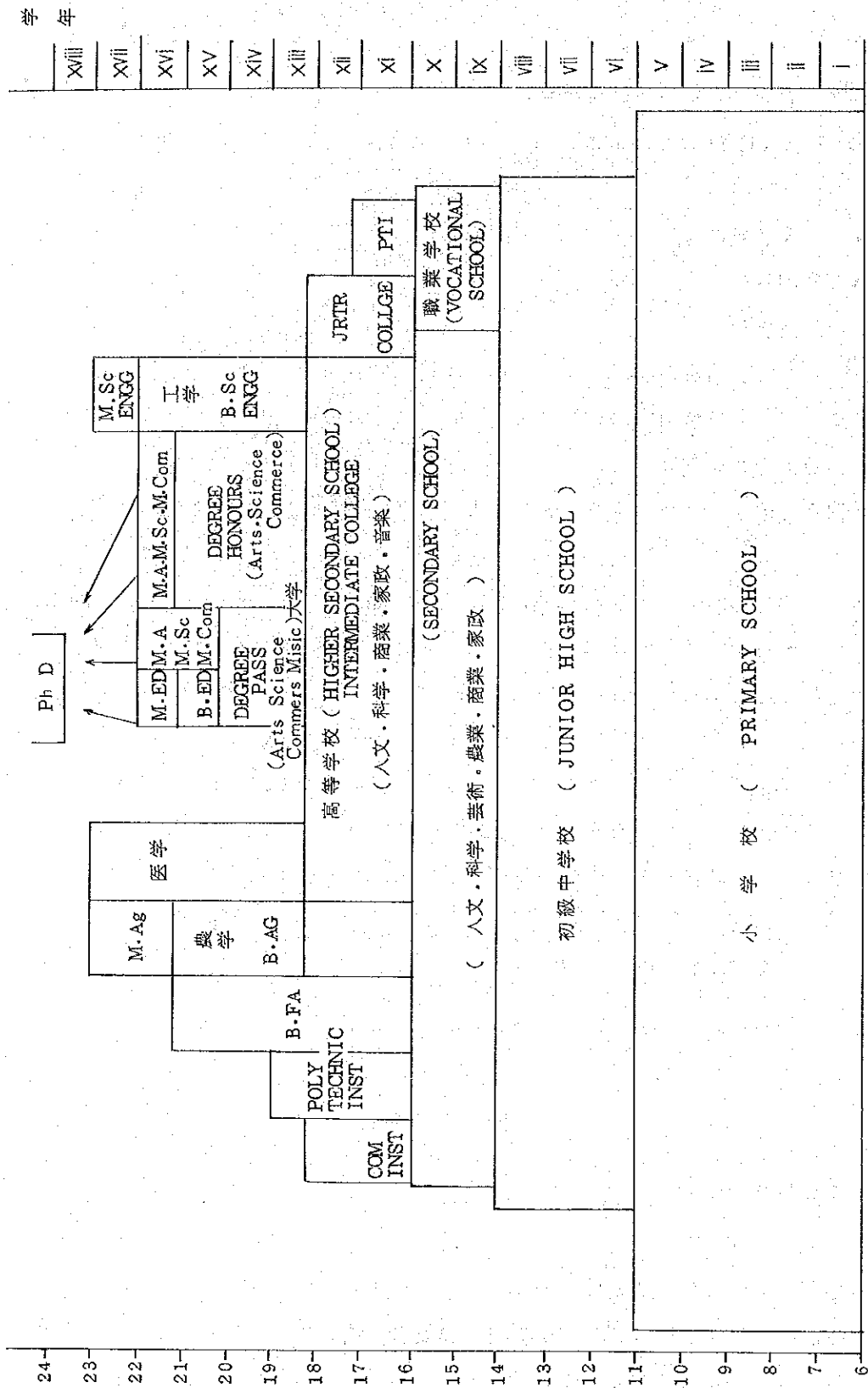
③ " " " Dec. 11, 80.

④ Bangladesh Observer, Tuesday Dec. 16, 80.

3-2 学校教育の概観

3-2-1 教育制度

今日施行している教育制度は、1974年のもので現在も行われている。図1のものがそれである。即ち、小学校が5年、中学校(初級中学校3年、上級中学校2年)が5年、高等学校2年(Intermediate Schoolと呼ばれている(日本の短大のような性格。))、大学4年(Bachelor course)、大学院2年(Master course)になっている。その上に Phod の学位がある。



第 3 - 1 図 バングラデシュの学校制度

初級中学校までは全国共通に学習が行われる。9年生になるとコースに分かれる。第1図にある職業学校 (Vocational school) に入るためには8年間の学習が必要である。一般の学校は、9年生になる時に学内で course に分かれる。これは人文、科学、芸術、農業、商業、家政の6コースである。学校の特性に応じ、全てのコースを開設する義務はないようである。

9年と10年の上級中学校を卒業すると、中等学校卒業資格 (Secondary School Certificate = SSC) が与えられる。これは全国一斉の共通試験で、国によって管理されている。合格は、第1等 (1st Division)、第2等 (2nd Division)、第3等 (3rd Division) までである。農業改良普及員養成所 (Agriculture Extension Training Institute = AET1) にはこの2nd Division 合格生迄が受験資格をもつ。この国ではまず、SSCの試験が何点とれるかがその後の方向を左右する。

成績によって2大別される生徒たちは、インターミディエイトスクールへ行く生徒と職業短大 (Vocational college) へ進む生徒とに分れる。

前者は、11年生12年生と2年間同じコース (科学、芸術コース) で勉強し、高等学校卒業資格 (Higher Secondary Certificate = HSC) を得るために試験を受ける。これにも第1等、第2等、第3等のランクが設けられている。試験の成績で進学する大学が決まる。この国も最高の成績の学生は、医学・技術・科学・農業という具合に進学先を決める。これは我国の傾向と酷似している。更に、Honors というコースがある (例えば Bachelor of Science Honors の如き)。このコースに合格すると、同じ学部でも学習教科目が異なり、学内試験の内容も異なる。学部を卒業して大学院へ進学すると、Honors の学生は1年間で修士の学位が与えられる。それだけ Ph.D へ近づいている。これらはすべて HSC の成績が決定するし、これも SSC と同様に国家試験である。

一方、後者のコースをとる生徒たちはインターミディエイトコースの生徒たちと同じ2年間それぞれの専門の教科目を学ぶ。AET1 もこの中に含まれる。これらの生徒たちは、コースを終了するとディプロマを受ける。それで、このコースをディプロマコースと呼ぶ。このディプロマは、それぞれの専門を修めたという証明であるにすぎない。このコースへ進み、ディプロマを得た者は、大学へ進みたくとも門戸は閉ざされている。即ち、ディプロマコースには HSC の試験を受ける資格はないし、一生涯の職業上の地位がここで大体決ってしまう。SSC を再受験するという事もない。そこで、成績の振わない子供たちを専門に訓練する機関、あるいは家庭教師などが生ずる。パングラデシュもこの意味では教育熱心な国である。図2、図3にその広告を示した。

Are you worried
about your
children's
education ?



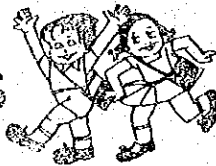
Leave it to us.
We shall try to
give them the best
possible academic
foundation.

Our experienced teachers and homely atmosphere will help build your children to face challenges of later life.

ADMISSION GOING ON FROM PLAY GROUP
TO CLASS V

**HERALD
TUTORIALS**

House, 166A (Old) 43 (New)
Road 13/3 (Old) 3 A (New)
Dhanmondi R. A. Dacca.



第3-2図 学習塾の広告

EDUCATIONAL

Naila Memorial Fleur Tu-
torial English medium admis-
sion going on play group to
'O' level 144 Road 3, Dhan-
mondi R.A. Phone. 312924.

BT-5192

第3-3図 家庭教師の広告
バン格拉デシュオブザーバー
12/18/80

バン格拉デシュオブザーバー 12/18/80

3-2-2 初等・中等教育の概観

教育上の行政区分は、一般行政区分と同じである。全国が4つの地方(Division)に分かれている。即ち、ダッカ地方(Dacca Division)・チッタゴン地方(Chittgon Division)・ラジャヒ地方(Rajshahi Division)及びクルナ地方(Khulna Division)である。これら地方は、更にDistrict, Sub-Division, Thana, Union, Villageに分けられている。これに即して、小学校(Primary School)も中学校(Low Secondary School)も配置されているものと考えてよい。

バン格拉デシュには、村が65,000、ユニオンが4,500、タナが413ある。小学校、中学校の数をみると第1・第2・第3表のようになっている。^⑤ 1973年に小学校が30,446校、中学

⑤ 田中・中村・鈴木；東南アジアにおける農業教育の振興に関する調査研究報告書；
タイ・バン格拉デシュ編；東南アジア農業教育開発協会；昭和52年3月。

校が6000校、インターミディエイトスクールとデグリーカレッジが合計500校である。1973年には2村に小学校1校、11村に中学校1校(1ユニオンに1.3校)ということになる。カレッジレベルで学校数が約10分の1に減ることは、在籍数を考えた時、極く少数の学生が学べ、大多数は学業から離れることを示している。第2・第3表の就学率を比べても、約68%の児童が小学校レベルで終わっていることがわかる。特に女子は約81.5%の者が進学していないことがわかるから、この対応策は非常に大切なものとならざるを得ない。現在は就学者数も増加していると考えられ、政府も第2次5ヶ年計画では以下の点を改善すると表明しているから、数字は多少の変動が考えられる。小学校に対する文部省の施策は、

- (1) 小学校児童の50%の者に教科書を無償で配布する。
- (2) 小学校女児童の30%の者に着物(ドレス)を無償で配布する。
- (3) 20の小学校のそれぞれに、タナオフィサーを配置する。
- (4) 政府指定のモデル校をつくる。
- (5) ラジオ・テレビを通ずる教育を導入する。
- (6) 1700名の小学校教諭を養成する。

第3-1表 バングラデシュの教育の普及状況(1950~73年)

教育段階 (学令)	年度	生徒数 (10万)	生徒増加 の割合 (%)	同学令別 人口 (10万)	就学率 (%)	学校数	学校増加 の割合 (%)
小学校(6~10) (Primary school)	1950~51	2449	-	6017	41	26352	
	1960~61	3330	3597	7630	44	26665	0.01
	1972~73	6000	8015	10260	58	30446	1412
中学校(11~15) (Low secondary school) (Secondary school)	1950~51	514	-	4610	11	3507	
	1960~61	533	355	5990	9	3140	-1047
	1972~73	1700	21907	9890	17	6000	19108
高等学校(16~17) (Intermediate College or Higher Secondary school)	1950~51	0.13	-	1840	0.69	23	
	1960~61	0.37	185	2220	1.67	21	- 870
	1972~73	230	522	3550	6.48	300	132857
高等学校(16~17) (Degree College)	1950~51	0.05	-	1480	0.34	36	
	1960~61	0.14	180	1660	0.84	60	6667
	1972~73	0.98	600	3431	2.86	200	23333

The first five year plan 1973~78 ²⁹⁾

第3-2表 バングラデシュの小学校就学児童数の推移

(単位：10万人)

年 度	生徒数 (I-V)				学 令 人 口			就学率 %			増 加 数		
	計	男	女	男女比	計	男	女	平均	男	女	計	男	女
1972-73	60.0	40.0	20.0	67/33	1026	527	499	58	76	40	-	-	-
1973-74*	66.3	44.4	21.9	67/33	1058	540	518	63	82	42	6.3	4.4	1.9
1974-75	72.0	47.5	24.5	66/34	1088	555	533	66	86	46	5.7	3.1	2.6
1975-76	77.2	50.2	27.0	65/35	1117	570	547	69	88	49	5.2	2.7	2.5
1976-77	81.9	52.4	29.5	64/36	1146	585	561	71	90	52	4.7	2.2	2.5
1977-78	85.9	54.1	31.8	63/37	1175	599	576	73	90	55	4.0	1.7	2.3

* 1973～74年推定

資料： The first five year plan 1973-78

第3-3表 バングラデシュの中学校就学生徒数の推移

(単位：10万人)

年 度	生徒数 (IV-X)				学 令 人 口			就学率 %			増 加 数		
	計	男	女	男女比	計	男	女	平均	男	女	計	男	女
1972-73	17.0	14.28	2.72	84/16	98.90	5085	4805	17.2	27.6	5.7	-	-	-
1973-74	17.90	14.86	3.04	83/17	102.00	5200	5000	17.5	28.8	6.1	0.90	0.58	0.32
1974-75	19.31	15.83	3.48	82/18	104.00	5400	5000	18.5	29.3	6.9	1.41	0.97	0.44
1975-76	21.08	17.07	4.01	81/19	107.70	5540	5230	19.6	30.8	7.7	1.77	1.24	0.53
1976-77	23.52	18.82	4.70	80/20	110.77	5700	5377	21.2	33.0	8.7	2.44	1.75	0.69
1977-78	26.62	21.03	5.59	79/21	113.30	5830	5500	23.5	36.1	10.2	3.10	2.21	0.89

1973～74年推定

資料： The first five year plan 1973-78

(7) 学校差をなくする。

- a 小学校に新しい学級を作る
- b 水道を設置する
- c 便所を設置する
- d 国家指令として女教師を配置する
- e 物理的な施設・設備を改善する^⑥

の各項にわたっている。

⑥ Ministry of Education, Educational Adviser Dr. M. Selim 氏の言。

3-2-3 小学校

バングラデシュでは、残念なことに実際に小学校で児童が授業を受けている有様をみることはできなかった。ただ、幸いにも二、三の小学校を訪れ、内部を見る機会に恵まれたのでそれを手掛りに考察する。

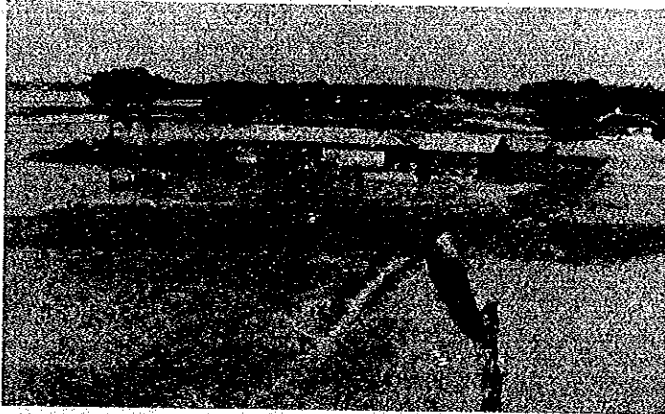
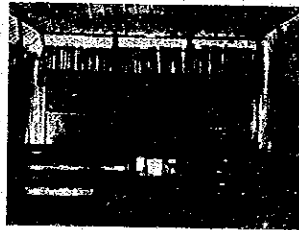
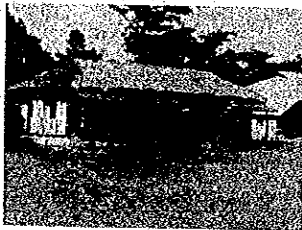


写真 3-1 田園地帯の小学校授業風景

写真 3-2 タカ族の小学校外観と内部



左に示したのは、ダッカとマイメイシンの略中間にある田園地帯の小学校である。竹かあしのようなもので側壁を作り、屋根はブリキ板のようなもので覆ってある。4 教室あるのがわかる。校庭に数十人の児童と教師が出ている。児童は背中がみえる。右から 2 つ目の室の入口には人間が座っている。教師でもあろうか。

マイメイシンの近く、国立公園 (National Park) がある。その奥にタカ族という高地民族がおり、ミッション系の小、中、高校がある。左のものがその写真である。出入口は 3 ケ所ある。真中と両脇である。正面と裏面に黒板があり、机と椅子が両方の黒板へ向って同じだけ並んでいる。複式学級で教育が行われている。中・高校は、屋根がトタンになって、壁は煉瓦作りになっている。生徒はこざっぱりとしていた。ただ、当地は観光客が屢々訪れる所でもある。

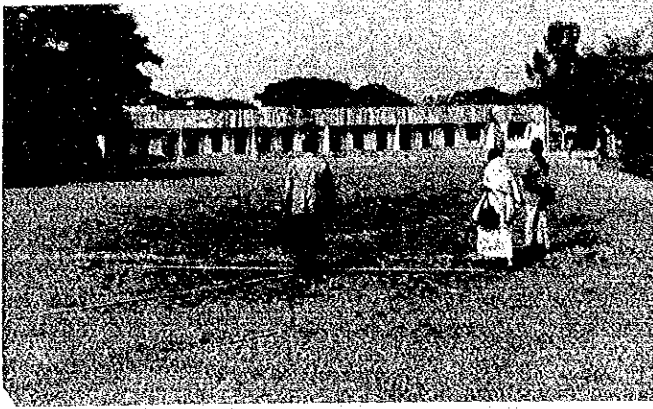


写真3-3 ビカルン・ニサヌーン小学校外観

る。低学年の教室は、日本の平均的小学校の教室と似ており、児童の作品も貼り出してある。児童は制服を着用しており、田園や高地の小学校とは根本的に異なっている。専用の講堂もある。それは階段教室の形をとっていて、数100人の児童収容能力を持っている。

通学児童の社会階層は略上流で中流は極く一部である。この小学校は3年生まで男女共学で、4年目には、男子児童は強制的に転校を余儀なくされる。

ダッカの市街地に、ビカルン・ニサヌーン女子学校 (Viquarun Nisa Noon School) がある。この学校は私立で、幼稚園・小学校から12年の一貫教育を行っている。その小学校について述べる。1年から5年まで、各学年3組あり、1組40人から45人在籍している。故に各学年は120人から135人で、5年までで600人から675人在籍してい

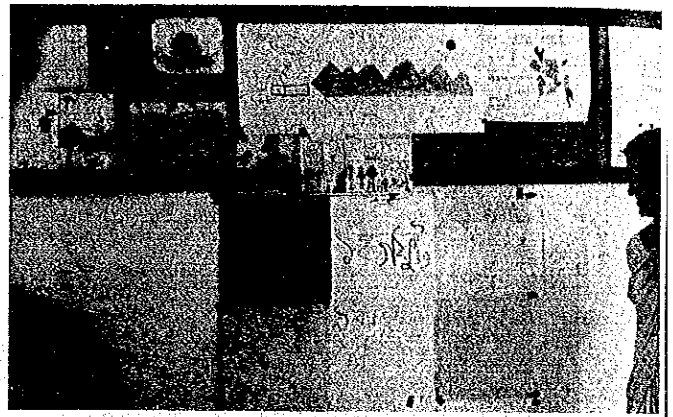


写真3-4 教室の後側にある児童の作品



写真3-5 小学校専用の講堂



写真3-6 小学校3年生の児童

3-2-4 初等教育政策

指導要領も教科課程も全て国(文部省)が作成している。小学校で現在行われている教科

課程は、

① ベンガル語、② 英語、③ 初級数学、④ 環境科学（日本の社会科の如きもの）であり、小学校4年生に人口教育（Population Education）即ち、家族計画を中心とするものを入れている。

前述の一貫教育の私立小学校では、

① ベンガル語、② 英語、③ 初等数学、④ 社会科、⑤ 科学（日本の物理・化学・生物・地学に相当する）、⑥ 衛生、⑦ デッサン（Drawing）、⑧ 裁縫、⑨ 芸術、⑩ 体育（Games.）になっていて、全て心須科目である。

文部省は私学を直接管轄していないために、このような履習科目の相違が出てくるものと考えられる。政府としては、小学校への政策は概観の箇所でも触れたように、児童を小学校に通学させることに焦点がおかれている段階である。ということができよう。

3-2-5 中等学校

右は、マイメイシんに近い高等学校の外観である。学生の着物は割合整っており、ゆたかさが感じられる。

一方、前述のヌースクールでは6年生、7年生は3クラス、8年生から12年生までは2クラスで構成されている。

授業は週40ピリオド（1ピリオド40-45分）で、8時30分から13時30分迄になっており、クラブ活動は16時迄である。授業は毎日7ピリオドあり、時間割もきちんとしていた。

教科は8年生までは1年生と同じで選択はない。9年生から12年生までは芸術と裁縫がなくなる。理科は4回講義で1回実験である。11年生からはHSC用に芸術コースと科学コースが作られている。

私立であるが募集要綱はない。要覧もない。受験生対策を特別にやらなくとも受験生は集ってくる。

入試はクイズ方式である。これは小学校1年生が対象である。12年間、特別な事情がなければ途中入学はない。



写真 3-7 Viquarun Nisa Noon School

教員は51名。そのうち3名が男子である。大底がダッカ・チッタゴン・ラッシュヤイ・カルカッタ・カラチの各大学の卒業生であり、使用教科書も分厚く、殆んど英語で書かれている。

6年生から10年生までは、1学級40名から45名である。故に10年生までは1学年405名である。11年生12年生はSSCの段階で抜ける者がいるため、1学級30名から35名、合計140名である。

6年生からSSCの合格を目指して教育が続けられている。この学校の生徒は、SSCは1st Division合格が100%である。^⑦

11年生になると、HSCの合格を目指す態勢が敷かれる。1クラスの在籍数が少ないこともあるのか、殆んど1st Divisionで合格する。^⑧

1年生から8年生まで、月45タカ(約630円)、9年生、10年生は月50タカ(約700円)、11年生、12年生の芸術コースは50タカ、科学コースは60タカ(約840円)と決められている。その他に、セッションサービスと称して年間授業料2ヶ月分を別途に収めることになっている。参考までに技術・資格の所有者が、1日20タカから30タカ、一般労務者が1日10タカから15タカの収入であることをつけ加えておく。この学校は、国から年間6500タカの補助を受けているとのことであった。^⑦

この学校の教師は1週間に20から25ピリオドの授業時間を受け持っている。この学校の教員の給料は不明であるが、着衣は上等であった。

3-2-6 中等学校政策

表1にも示されているように、Low Secondary Schoolは、6.7.8年がそれである。これに、1つの型の教科課程が示されている。即ち、

- 1.ベンガル語、2.英語、3.数学、4.科学(物理・化学・生物・地学等をさす)、5.社会科学(歴史・地理などを指す)

があり、コースは分かれていない。

9.10年生は、6つのコースに分かれている。即ち、

写真3-8 天秤室

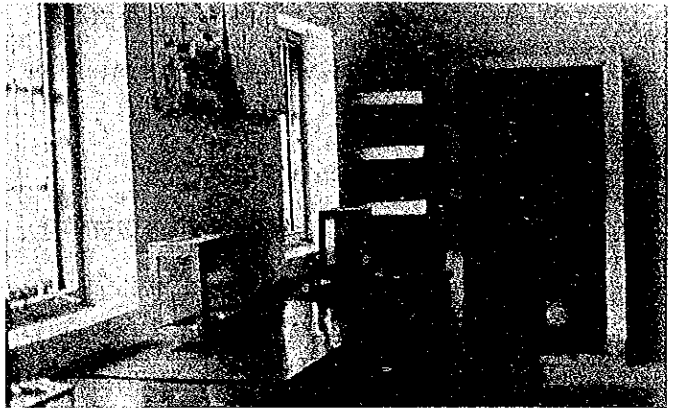
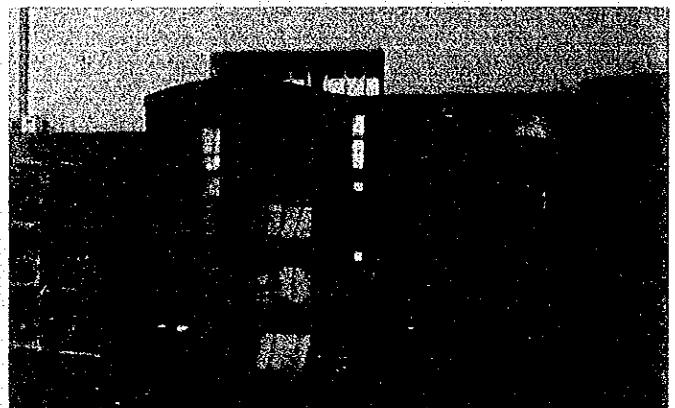


写真3-9 Vigurun Nisa Noon School
の図書室



- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. Science コース | 4. Agriculture コース |
| 2. Humanity コース | 5. Industry コース |
| 3. Commerce コース | 6. Home Economics コース |

である。そして、これらのコース内においても国語・数学は必須である。但し、第2次5ケ年計画で手直しが加えられつつある。

このほかに、第2次5ケ年計画ではコミュニティスクール設立も考えられている。これは、一般の学校と同じ教科課程による Secondary level の学校で（9・10年生相当）主に Vocational Training を施すものである。この設立目的は、8年を終ったもの達の救済措置であるとのことであった。^⑩

教員の給与ベースは、一般の人間のものに比べて低い。新任の小学校教員は月250タカである。タイピスト（日給20タカから25タカ）^⑪と比較すると、低さがよく分る。そのため教員の志願者が少ない。これも、ベースの手直しが行われたと聞いたが果してどうか実態は定かでない。

私立学校は、文部省と直接関係を持っていない。文部省の下部機構の DPI (Director of Public Instruction) に監督され、指導されている。

⑨ Viqarun, Nisa, Neon, School Chowdhury, A. 校長の言

⑩ Ministry of Education, Educational Adviser, Dr. Prof. Selim 氏の言。

⑪ Bangladesh Observer ; Tuesday Dec. 16, 80

3-2-7 カレッジとユニバーシティ

(1) ダッカ農業大学 (Dacca Agricultural College)

技術系大学の代表的な大学である。別名バングラデシュ農科大学 (Bangladesh Agricultural Institute Dacca) とも呼ばれている。歴史は古く (1938年設立)、農業の技術者育成が急務のこの国にとっては、この大学は非常に貴重な存在であった。現在政府の要職には、この学校の卒業生が多数活躍している。1964年に、ダッカ大学の農学部でなくなり、独立した。その年 (1961年) にバングラデシュ農科大学

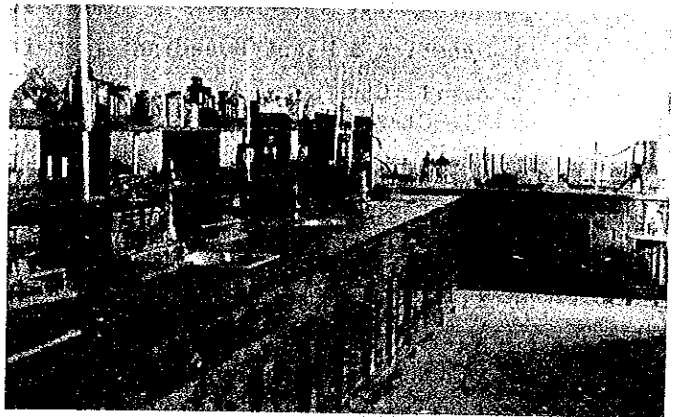


写真3-10 D.A.Collegeの
化学実験室

(Bangladesh Agricultural University, Mymensingh) が設立され、そこの Affiliate College になって

しまった。DACの一応の独立は1971年になっている。

この大学(DAC)にはfacultyはない。Departmentが13ある。それは、表4に示すように、

- (1) Agronomy
- (2) Crop Botany
- (3) Entomology & Zoology
- (4) Genetics & Plant Breeding
- (5) Agricultural Chemistry & Bio-Chemistry
- (6) Horticulture
- (7) Soil Science
- (8) Plant Pathology
- (9) Statistics & Mathematics
- (10) Agricultural Extension
- (11) Agricultural Economics & Rural Sociology
- (12) Animal Husbandry
- (13) Farm mechanics

に分けられている。教授12名、助教授22名、講師24名で、総員58名である。このアウトラインは、Mymensinghにある大学と同じである。

第3-4表 The College has 13(thirteen) Departments with the staffing pattern noted below:-

Department	Professor	Assis.Professor	Lecturer.
1. Agronomy	1	3	3
2. Crop Botany	1	2	2
3. Entomology & Zoology	1	2	3
4. Genetics & Plant Breeding	1	1	1
5. Agril. Chemistry & Bio-Chemistry	1	3	3
6. Horticulture	1	1	2
7. Soil Science	1	2	3
8. Plant Pathology	1	1	2
9. Statistics & Mathematics	1	2	1
10. Agril. Extension	1	1	1
11. Agril. Economics & Rural Sociology	1	2	—
12. Animal Husbandry	1	1	1
13. Farm Mechanics	—	1	2
	12	22	24

在學生は次の表の通りである。

第3-5表 Number of students (both male & female) admitted and passed out during the last seven years.

Year	No. of students admitted	No. of students passed out	
		Graduates	Post graduate
1973-74	60	66	5
1974-75	51	22	
		69	
1975-76	60	96	2
1976-77	114	117	2
1977-78	120	21	—
1978-79	120	—	—
1979-80	120	—	—

同大学資料

1. 学年 120 名ずつであるから、全校で 480 名いることになる。入学時には試験を実施する。形式は主に記述式で、80%の比率を持つ。残りは口頭試問である。High School の内申書も重視する。

入試科目は、①物理学、②化学、③数学、④生物学、⑤一般知識であり、それぞれ80点満点である。入試時には、全国から 1200 名（80 年の例）も集まる。120 名が合格する。女子学生の割合は 5% 程度である。

大学には奨学生制度がある。奨学生には 2 種類ある。

④ 月 100 タカ 10% の学生（12 名）

⑤ 月 75 タカ 90% の学生（108 名）

（全学生が奨学生である。国の力の入れようが良く分かる。）

⑥ 県の方からの奨学生、ローカルクラブ、ローカルエージェンシーの奨学生

（数・金額などは不明）

学生の 70% から 80% の者が Dacca 市内及びその周辺に住んでいる。

受験者は HSC をとっている者に限られている。他は受験できない。

卒業生は、表 5 にあるように 2 通りの方向に進む。ひとつは就職、他は大学院である。

この大学には Master of Science of Agriculture の Course がある。この選択、学部の卒業も B.A.U. Mymensingh の下にある。Master の Degree を取得するためには、わざわざ Mymensingh へ行く必要が生じている。即ち、DAC は Theory を教えるのではなく、Practice のみを教えるのである。一方、就職する学生はいろいろな政府機関、外部団体（Semi-Government）、私立の各種機関（たとえば、BARI・BRR1・CARD1・BARC・BADC・IRDP・Directorate of Agriculture、SRI・HDB・Krishi 銀行・Sonali 銀行